

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）							
フリガナ設置者		カッコリカゲン コナンカクエン 学校法人 甲南学園							
フリガナ大学の名称		コナンイブク 甲南大学（KONAN UNIVERSITY）							
大学本部の位置		兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号							
大学の目的		学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的とする。							
新設学部等の目的		本プログラムでは、多様な文化と言語背景を持つ人々と関わり効果的に協働することを可能にする複数言語の運用能力、異文化間の価値観の異なりや多様性に起因する問題に対する異文化間調整能力、AI・データサイエンス、ICTの活用などを含めた文理横断的な知識と技能、課題解決のための企画立案・提案力を備え、グローバル社会または地域社会の持続的発展に貢献することのできるグローバル人材育成を目指す。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学環 [Special Track for Accelerated Global Education]	4年	25人	-年次人	100人	学士（グローバル教養） 【Bachelor of Global Liberal Arts】	令和6年4月第1年次	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号	学部等連係課程実施基本組織等学位の分野：文学関係 法学関係 経済学関係
	連携協力学部（Ⅰ） 法学部 [Faculty of Law] 法学科 [Department of Law]	4	345	-	1380	学士（法学） 【Bachelor of Law】	昭和35年4月第1年次	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号	学位の分野：法学関係
	法学科からグローバル教養学環の内数とする入学定員数		15	-	60				
	連携協力学部（Ⅱ） マネジメント創造学部 [Hirao School of Management] マネジメント創造学科 [Department of Management]	4	180	-	720	学士（マネジメント） 【Bachelor of Management】	平成21年4月第1年次	兵庫県西宮市高松町8番33	学位の分野：経済学関係
	マネジメント創造学科からグローバル教養学環の内数とする入学定員数		10	-	40				
計			-	-	-				

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)										
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学環	125科目	37科目	18科目	180科目	130単位				
教 員	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼 任 教 員 等	
				教授	准教授	講師	助教	計		
組	新 設 分	学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学位プログラム		人	人	人	人	人	人	人
				<0> 【9】 (11)	<0> 【3】 (3)	<0> 【1】 (1)	<0> 【0】 (0)	<0> 【13】 (15)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (127)
組	既	計		9 (11)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (15)	0 (0)	0 (127)
		文学部 日本語日本文学科		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	26 (26)
組		英語英米文学科		8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	21 (21)
		社会学科		9 (9)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	19 (19)
組		人間科学科		10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	49 (49)
		歴史文化学科		8 (8)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	49 (49)
組		共通		1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)
		理工学部 物理学科		9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	27 (27)
組		生物学科		7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	13 (13)
		機能分子化学科		10 (10)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	20 (20)
組		共通		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	15 (15)
		経済学部 経済学科		19 (19)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	35 (35)
組	設	法学部 法学科		17 【1】 (19)	7 【0】 (7)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	25 【1】 (27)	0 【0】 (0)	44 【0】 (44)
		法学部 共通		0 【0】 (1)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (1)	0 【0】 (0)	44 【0】 (44)
組		経営学部 経営学科		22 (22)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	50 (50)
		知能情報学部 知能情報学科		12 (12)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	21 (21)
組		マネジメント創造学部 マネジメント創造学科		7 【1】 (8)	6 【0】 (6)	3 【0】 (3)	1 【0】 (1)	17 【1】 (18)	0 【0】 (0)	58 【0】 (58)
		フロンティアサイエンス学部 生命化学科		10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	13 (13)
組		全学共通教育センター		10 【7】 (23)	8 【3】 (11)	6 【1】 (7)	0 【0】 (0)	24 【11】 (41)	0 【0】 (0)	271 【0】 (271)
		国際交流センター		0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	11 (11)
組		先端生命工学研究所		1 (1)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科法務専攻		0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	7 (7)
組	分	計		167 (187)	48 (51)	22 (23)	5 (5)	242 (266)	0 (0)	-
		合 計		167 (187)	48 (51)	22 (23)	5 (5)	242 (266)	0 (0)	-

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計								
	事 務 職 員		199 (199)		101 (101)		300 (300)								
	技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)								
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)		1 (1)		7 (7)								
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)								
	計		205 (205)		102 (102)		307 (307)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計						
	校 舎 敷 地		113,516.5 m ²		0 m ²		0 m ²		113,516.5 m ²						
	運 動 場 用 地		79,559.3 m ²		0 m ²		0 m ²		79,559.3 m ²						
	小 計		193,075.8 m ²		0 m ²		0 m ²		193,075.8 m ²						
	そ の 他		800 m ²		0 m ²		0 m ²		800 m ²						
	合 計		193,875.8 m ²		0 m ²		0 m ²		193,875.8 m ²						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計						
			130,276.6 m ² (130,276.6 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		130,276.6 m ² (130,276.6 m ²)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設					
		102室		142室		219室		21室 (補助職員 3人)		14室 (補助職員 4人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称					室 数							
			学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学環					13 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学環		798,000 [194,000] (780,000 [189,000])		11,000 [4,000] (11,000 [4,000])		35,000 [34,900] (37,000 [36,900])		8,000 (8,000)		7,115 (7,115)		72 (72)		
	計		798,000 [194,000] (780,000 [189,000])		11,000 [4,000] (11,000 [4,000])		35,000 [34,900] (37,000 [36,900])		8,000 (8,000)		7,115 (7,115)		72 (72)		
図 書 館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数						
			9337.56 m ²			1,197			1,026,139						
体 育 館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体			
			10,365.1 m ²			野球場、アメリカンフットボール兼ラグロス場、ラグビー場兼サッカー場、アーチェリー練習場、屋外プール、テニスコート7面、弓道場、陸上競技場2面、ゴルフ練習場、馬場									
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分		開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費（その他運用経費を含む）を含む。				
		教員1人当り研究費等			901千円	1,309千円	901千円	901千円	－ 千円	－ 千円					
		共 同 研 究 費 等			150千円	150千円	150千円	150千円	－ 千円	－ 千円					
		図 書 購 入 費		4,218千円	4,218千円	4,218千円	4,218千円	4,218千円	－ 千円	－ 千円					
		設 備 購 入 費		16,200千円	250千円	250千円	250千円	250千円	－ 千円	－ 千円					
	学生1人当り納付金	第 1 年次		第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次							
		1,222千円		1,221千円	1,221千円	1,221千円	1,221千円	－ 千円	－ 千円						
	学生納付金以外の維持方法の概要				手数料収入（入学検定料等）、寄付金収入、補助金収入（私立大学等経常費補助金等）、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金収入、雑収入等										

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	甲南大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
	文学部	年	人	年次人	人		倍		兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	日本語日本文学科	4	70	—	280	学士（文学）	1.15 1.16	昭和32年度	
	英語英米文学科	4	90	—	360	学士（文学）	1.11	昭和32年度	
	社会学科	4	90	—	360	学士（社会学）	1.18	昭和32年度	
	人間科学科	4	95	—	380	学士（文学）	1.12	平成8年度	
	歴史文化学科	4	60	—	240	学士（文学）	1.15	平成13年度	
	理工学部						1.12		同上
	物理学科	4	50	—	200	学士（理学）又は 学士（理工学）	1.14	平成13年度	
	生物学科	4	45	—	180	学士（理学）	1.20	平成13年度	
	機能分子化学科	4	60	—	240	学士（理工学）	1.04	平成13年度	
	経済学部						1.15		同上
	経済学科	4	345	—	1,380	学士（経済学）	1.15	昭和27年度	
	法学部						1.14		同上
	法学科	4	345	—	1,380	学士（法学）	1.14	昭和35年度	
	経営学部						1.16		同上
	経営学科	4	345	—	1,380	学士（経営学）	1.16	昭和35年度	
	知能情報学部						1.19		同上
	知能情報学科	4	120	—	480	学士（知能情報学）	1.19	平成20年度	
	マネジメント創造学部						1.10		兵庫県西宮市高松町8番地33
	マネジメント創造学科	4	180	—	720	学士（マネジメント）	1.10	平成21年度	
	フロンティアサイエンス学部						1.14		兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
	生命化学科	4	45	—	180	学士（理工学）	1.14	平成21年度	
	【修士課程】								兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	人文科学研究科						0.29		
	日本語日本文学専攻	2	5	—	10	修士（文学）	0.30	昭和39年度	
	英語英米文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	0.25	昭和39年度	
	応用社会学専攻	2	5	—	10	修士（社会学）	0.40	昭和39年度	
	人間科学専攻	2	10	—	20	修士（文学）	0.29	平成11年度	
	自然科学研究科						0.97		同上
	物理学専攻	2	12	—	24	修士（理学）	0.63	昭和39年度	
	化学専攻	2	12	—	24	修士（理学）	1.25	昭和39年度	
	生物学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	1.70	昭和39年度	
	知能情報学専攻	2	10	—	16	修士（知能情報学）	0.63	平成5年度	
	社会科学研究科						0.28		同上
	経済学専攻	2	10	—	20	修士（経済学）	0.40	昭和40年度	
	経営学専攻	2	10	—	20	修士（経営学）	0.15	昭和40年度	
	フロンティアサイエンス研究科						0.87		兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
	生命化学専攻	2	15	—	30	修士（理工学）	0.87	平成21年度	
	【博士後期課程】								兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	人文科学研究科						0.17		
	日本語日本文学専攻	3	2	—	6	博士（文学）	0.00	昭和46年度	
	英語英米文学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	昭和39年度	
	応用社会学専攻	3	2	—	6	博士（社会学）	0.17	昭和46年度	
	人間科学専攻	3	3		9	博士（文学）	0.22	平成13年度	

令和5年度入学定員増4人

令和3年度入学定員増5人

自然科学研究科						0.29		同上	
物理学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.22	昭和39年度		
生命・機能科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.33	平成2年度		
知能情報学専攻	3	2	—	6	博士（知能情報学）	0.33	平成7年度		
社会科学研究科						1.33		同上	
経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	1.33	昭和46年度		
フロンティアサイエンス研究科						2.40		兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20	令和4年度入学定員増1人
生命化学専攻	3	2	—	5	博士（理工学）	2.40	平成21年度		
【専門職学位課程】						—		同上	令和元(2019)年秋入学より募集停止
法学研究科						—			
法務専攻	3	—	—	—	法務博士（専門職）	—	平成16年度		
附属施設の概要	該当施設なし								

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人甲南学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員
甲南大学			
文学部			
日本語日本文学科	70	-	280
英語英米文学科	90	-	360
社会学科	90	-	360
人間科学科	95	-	380
歴史文化学科	60	-	240
理工学部			
物理学科	50	-	200
生物学科	45	-	180
機能分子化学科	60	-	240
経済学部			
経済学科	345	-	1,380
法学部			
法学科	345	-	1,380
経営学部			
経営学科	345	-	1,380
知能情報学部			
知能情報学科	120	-	480
マシント創造学部			
マシント創造学科	180	-	720
フロンティアサイエンス学部			
生命化学科	45	-	180
計	1,940	-	7,760

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
甲南大学				
文学部				
日本語日本文学科	70	-	280	
英語英米文学科	90	-	360	
社会学科	90	-	360	
人間科学科	95	-	380	
歴史文化学科	60	-	240	
理工学部				
物理学科	50	-	200	
生物学科	45	-	180	
機能分子化学科	60	-	240	
経済学部				
経済学科	345	-	1,380	
法学部				
法学科	330	-	1,320	学位プログラムへ定員移行（△15）
経営学部				
経営学科	345	-	1,380	
知能情報学部				
知能情報学科	120	-	480	
マシント創造学部				
マシント創造学科	170	-	680	学位プログラムへ定員移行（△10）
フロンティアサイエンス学部				
生命化学科	45	-	180	
グローバル教養学位プログラム	25	-	100	学位プログラムの設置（認可又は届出）
計	1,940	-	7,760	

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員
甲南大学大学院【修士課程】			
人文科学研究科			
日本語日本文学専攻	5	-	10
英語英米文学専攻	6	-	12
応用社会学専攻	5	-	10
人間科学専攻	10	-	20
自然科学研究科			
物理学専攻	12	-	24
化学専攻	12	-	24
生物学専攻	5	-	10
知能情報学専攻	10	-	20
社会科学研究科			
経済学専攻	10	-	20
経営学専攻	10	-	20
フロンティアサイエンス			
生命化学専攻	15	-	30
甲南大学大学院【博士後期課程】			
人文科学研究科			
日本語日本文学専攻	2	-	6
英語英米文学専攻	3	-	9
応用社会学専攻	2	-	6
人間科学専攻	3	-	9
自然科学研究科			
物理学専攻	3	-	9
生命・機能科学専攻	3	-	9
知能情報学専攻	2	-	6
社会科学研究科			
経営学専攻	3	-	9
フロンティアサイエンス研究科			
生命化学専攻	2	-	6
甲南大学大学院【専門職学位課程】			
法学研究科			
法務専攻	-	-	-
計	123	-	269

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
甲南大学大学院【修士課程】				
人文科学研究科				
日本語日本文学専攻	5	-	10	
英語英米文学専攻	6	-	12	
応用社会学専攻	5	-	10	
人間科学専攻	10	-	20	
自然科学研究科				
物理学専攻	12	-	24	
化学専攻	12	-	24	
生物学専攻	5	-	10	
知能情報学専攻	10	-	20	
社会科学研究科				
経済学専攻	10	-	20	
経営学専攻	10	-	20	
フロンティアサイエンス				
生命化学専攻	15	-	30	
甲南大学大学院【博士後期課程】				
人文科学研究科				
日本語日本文学専攻	2	-	6	
英語英米文学専攻	3	-	9	
応用社会学専攻	2	-	6	
人間科学専攻	3	-	9	
自然科学研究科				
物理学専攻	3	-	9	
生命・機能科学専攻	3	-	9	
知能情報学専攻	2	-	6	
社会科学研究科				
経営学専攻	3	-	9	
フロンティアサイエンス研究科				
生命化学専攻	2	-	6	
甲南大学大学院【専門職学位課程】				
法学研究科				
法務専攻	-	-	-	
計	123	-	269	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 学 部 等 の 学 年 進 行 終 了 時 に お け る 状 況									
学部等の名称			授与する学位等		専任教員		学部等の名称			授与する学位等		異 動 元		専任教員	
			学位又は 称号	学位又は 学科の分野						学位又は 称号	学位又は 学科の分野				
						グローバル教養 学環	学士 (グローバル 教養)	文学関係 法学関係 経済学関係	全学共通教育センター(兼務)		11	7			
									法学部法学科(兼務)		1	1			
									マネジメント創造学部 マネジメント創造学科(兼		1	1			
									計		13	9			
文学部 日本語日本文学 科	学士(文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	8	6	文学部 日本語日本文学 科	学士(文学)	文学関係	文学部日本語日本文学科	8	6				
			退職	0	0				新規採用	0	0				
			計	8	6				計	8	6				
文学部 英語英米文学科	学士(文学)	文学関係	文学部英語英米文学科	9	6	文学部 英語英米文学科	学士(文学)	文学関係	文学部英語英米文学科	9	6				
			退職	2	2				新規採用	2	2				
			計	11	8				計	11	8				
文学部 社会学科	学士(社会 学)	文学関係	文学部社会学科	9	8	文学部 社会学科	学士(社会 学)	文学関係	文学部社会学科	9	8				
			退職	1	1				新規採用	1	1				
			計	10	9				計	10	9				
文学部 人間科学科	学士(文学)	文学関係	文学部人間科学科	11	9	文学部 人間科学科	学士(文学)	文学関係	文学部人間科学科	11	9				
			退職	1	1				新規採用	1	1				
			計	12	10				計	12	10				
文学部 歴史文化学科	学士(文学)	文学関係	文学部歴史文化学科	7	6	文学部 歴史文化学科	学士(文学)	文学関係	文学部歴史文化学科	7	6				
			退職	2	2				新規採用	2	2				
			計	9	8				計	9	8				
文学部 共通	-	-	文学部共通	2	1	文学部 歴史文化学科	-	-	文学部歴史文化学科	2	1				
			退職	0	0				新規採用	0	0				
			計	2	1				計	2	1				
経済学部 経済学科	学士(経済 学)	経済学関係	経済学部経済学科	20	17	経済学部 経済学科	学士(経済 学)	経済学関係	経済学部経済学科	20	17				
			退職	3	3				新規採用	3	3				
			計	23	20				計	23	20				
経営学部 経営学科	学士(経営 学)	経済学関係	経営学部経営学科	19	17	経営学部 経営学科	学士(経営 学)	経済学関係	経営学部経営学科	19	17				
			退職	5	5				新規採用	5	5				
			計	24	22				計	24	22				
法学部 法学科	学士(法学)	法学関係	法学部法学科	25	17	法学部 法学科	学士(法学)	法学関係	法学部法学科	25	17				
			グローバル教養学環(兼務)	1	1				グローバル教養学環(兼務)	1	1				
			退職	1	1				新規採用	1	1				
			その他	1	1				その他	1	1				
			計	28	20				計	28	20				
マネジメント創造 学部 マネジメント創造 学科	学士(マネジ メント)	経済学関係	マネジメント創造学部マネジメント創造学科	16	6	マネジメント創造 学部 マネジメント創造 学科	学士(マネジ メント)	経済学関係	マネジメント創造学部マネジメント創造学科	16	6				
			グローバル教養学環(兼務)	1	1				グローバル教養学環(兼務)	1	1				
			退職	1	1				新規採用	1	1				
			その他	0	0				その他	0	0				
			計	18	8				計	18	8				
全学共通教育セ ンター	-	-	全学共通教育センター	24	10	全学共通教育セ ンター	-	-	全学共通教育センター	24	10				
			グローバル教養学環(兼務)	11	7				グローバル教養学環(兼務)	11	7				
			退職	3	3				新規採用	0	0				
			その他	3	3				その他	3	3				
			計	41	23				計	38	20				

別記様式第2号・別添2

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 き の 区 分
昭和35年4月	法学部法学科 設置	法学関係	設置認可(学部)
平成21年4月	マネジメント創造学部マネジメント創造学科 設置	経済学関係	設置届出(学部)
昭和27年4月	経済学部経済学科 設置	経済学関係	設置認可(学部)
昭和35年4月	経営学部経営学科 設置	経済学関係	設置認可(学部)
昭和32年4月	文学部日本語日本文学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
昭和32年4月	文学部英語英米文学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
昭和32年4月	文学部社会学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
平成8年4月	文学部人間科学科 設置	文学関係	設置認可(学部)
平成13年4月	文学部歴史文化学科 設置	文学関係	設置認可(学部)

教 育 課 程 等 の 概 要

（グローバル教養学環）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
演習	STAGE演習ⅠA	1前	2				○		7	3	1			
	STAGE演習ⅠB	1後	2				○		7	3	1			
	STAGE演習ⅡA	2前	2				○		7	3	1			
	STAGE演習ⅡB	2後	2				○		7	3	1			
	STAGE演習ⅢA	3前	2				○		7	3	1			
	STAGE演習ⅢB	3後	2				○		7	3	1			
	STAGE演習Capstone	4通	8				○		7	3	1			
	小計（7科目）	—	20	0	0	—			7	3	1	0	0	0 —
言語運用力	中級英語①	中級英語Writing	1後	4		○			1					兼13
		中級英語Presentation	1後	4		○			2					兼8
		中級英語Speaking	2前	4		○			1					兼11
		中級英語Global TopicsⅠ	2前	2		○			1					兼7
		中級英語Global TopicsⅡ	2前	2		○								兼4
	中級英語②	中級英語Listening	2通	4		○								兼9
		中級英語Reading	2通	4		○								兼6
		中級英語Pronunciation	2前・後	2		○			2					兼1
		中級英語TOEIC	2通	4		○								兼6
		中級英語Life TopicsⅠ	2前・後	2		○								兼3
		中級英語Life TopicsⅡ	2前・後	2		○								兼3
		中級英語Career EnglishⅠ	2前・後	2		○								兼3
		中級英語Career EnglishⅡ	2前・後	2		○								兼2
	上級英語	上級英語TOEIC	3通	4		○								兼3
		上級英語Global TopicsⅠ	3前	2		○								兼1
		上級英語Global TopicsⅡ	3後	2		○								兼1
		上級英語Career EnglishⅠ	3前	2		○								兼1
		上級英語Career EnglishⅡ	3後	2		○								兼1
		上級英語Life TopicsⅠ	3前	2		○								兼1
		上級英語Life TopicsⅡ	3後	2		○								兼1
	ドイツ語	中級ドイツ語Ⅰ	2通・後	4		○				1				兼4
		中級ドイツ語Ⅱ	2通・前	4		○				1				兼3
		中級ドイツ語Ⅲ	2通	4		○								兼4
		中級ドイツ語Ⅳ	2通	4		○								兼8
		上級ドイツ語Ⅰ	3通	4		○								兼1
		上級ドイツ語Ⅱ	3通	4		○				1				兼1
	フランス語	中級フランス語Ⅰ	2通・後	4		○								兼3
		中級フランス語Ⅱ	2通・前	4		○								兼6
		中級フランス語Ⅲ	2通	4		○								兼2
		中級フランス語Ⅳ	2通	4		○								兼10
		上級フランス語Ⅰ	3通	4		○								兼1
		上級フランス語Ⅱ	3通	4		○								兼2
	中国語	中級中国語Ⅰ	2通・後	4		○								兼11
		中級中国語Ⅱ	2通・前	4		○								兼7
		中級中国語Ⅲ	2通	4		○								兼3
		中級中国語Ⅳ	2通	4		○								兼3
		上級中国語Ⅰ	3通	4		○								兼3
		上級中国語Ⅱ	3通	4		○								兼3
	韓国語	中級韓国語Ⅰ	2通・後	4		○								兼10
		中級韓国語Ⅱ	2通・前	4		○								兼11
		中級韓国語Ⅲ	2通	4		○								兼9
		中級韓国語Ⅳ	2通	4		○								兼8

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語運用力	韓国語	上級韓国語Ⅰ		4		○								兼4
		上級韓国語Ⅱ		4		○								兼5
	留学関連	TOEFLⅠ		2		○								兼1
		TOEFLⅡ		2		○								兼1
		IELTSⅠ		2		○								兼1
		IELTSⅡ		2		○								兼1
		海外語学講座Ⅰ		4			○		1					外国留学帰国学生 の単位換算科目 外国留学帰国学生 の単位換算科目 外国留学帰国学生 の単位換算科目 外国留学帰国学生 の単位換算科目
		海外語学講座Ⅱ		4			○		1					
		海外語学講座Ⅲ		2			○		1					
		海外語学講座Ⅳ		2			○		1					
		外国留学科目Ⅰ		4			○		1					
		外国留学科目Ⅱ		4			○		1					
		外国留学科目Ⅲ		4			○		1					
		外国留学科目Ⅳ		4			○		1					
		小計（56科目）	—	0	186	0	—		4	1	0	0	0	兼109
														—
国際理解・グローバル力	A群	国際理解Ⅰ（異文化理解）		2		○			2					兼1
		国際理解Ⅱ（国際問題）		2		○								
		SDGs概論		2		○			1					
		グローバル実践プロジェクトⅠ		2				○	3		1			
		グローバル実践プロジェクトⅡ		2				○	3		1			
		小計（5科目）	—	0	10	0	—		3	0	1	0	0	兼2
	B群	世界の中の日本Ⅰ		2		○								兼1
		世界の中の日本Ⅱ		2		○								兼1
		English RegionsⅠ		2		○								兼4
		English RegionsⅡ		2		○								兼3
		English RegionsⅢ		2			○		1					外国留学帰国学生 の単位換算科目 外国留学帰国学生 の単位換算科目
		English RegionsⅣ		2			○		1					
		German StudiesⅠ		2		○				1				
		German StudiesⅡ		2		○				1				外国留学帰国学生 の単位換算科目 外国留学帰国学生 の単位換算科目
		German StudiesⅢ		2			○			1				
		German StudiesⅣ		2			○			1				
		French StudiesⅠ		2		○								兼1
		French StudiesⅡ		2		○								兼1
		French StudiesⅢ		2			○							兼1
		French StudiesⅣ		2			○							兼1
		Chinese StudiesⅠ		2		○								兼1
		Chinese StudiesⅡ		2		○								兼1
		Chinese StudiesⅢ		2			○							兼1
		Chinese StudiesⅣ		2			○							兼1
		Korean StudiesⅠ		2		○								兼1
		Korean StudiesⅡ		2		○								兼1
		Korean StudiesⅢ		2			○							兼1
		Korean StudiesⅣ		2			○							兼1
		社会学概論		2		○								兼2
		多文化共生論	2前・後	2		○								兼3
		文化人類学	2前・後	2		○								兼1
		社会人間学	2前・後	2		○								兼2
		社会心理学	2前	2		○								兼1
		ブリティッシュ・スタディーズⅠ	2前	2		○								兼2
		ブリティッシュ・スタディーズⅡ	2後	2		○								兼2
		アメリカン・スタディーズⅠ	2前	2		○								兼1
		アメリカン・スタディーズⅡ	2後	2		○								兼1
		社会問題と思想	2後	2		○								兼1
		社会問題と制度	2前	2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	グローバル研究プロジェクトA	2通		4			○		1					
国際理解・グローバル力	グローバル研究プロジェクトB	2通		6			○							兼1
	海外ボランティアⅠ	1休		4				○						兼1
	海外ボランティアⅡ	1休		2				○						兼1
	海外インターンシップ	2休		4				○	1					
	エリアスタディーズⅠ	1休		2				○	1					
	エリアスタディーズⅡ	1休		2				○						兼1
	エリアスタディーズⅢ	1休		2				○			1			
	エリアスタディーズⅣ	1休		2				○						兼1
	エリアスタディーズⅤ	1休		2				○	1					
	エリアスタディーズⅥ	1休		2				○						兼1
	エリアスタディーズⅦ	1休		2				○			1			
	エリアスタディーズⅧ	1休		2				○						兼1
	エリアスタディーズⅨ	1休		2				○	1					
	エリアスタディーズⅩ	1休		2				○						兼1
	実践ボランティアⅠ	1休		1				○						兼2
	実践ボランティアⅡ	1休		1				○						兼2
	地域ファシリテイト	2前		2			○							兼1
	小計（51科目）	—	0	110	0	—			2	2	1	0	0	兼31
データサイエンス	AI・データサイエンス入門	1後		2		○				1				兼2
	データサイエンス基礎	2前		2		○								兼1
	IT応用	1後		2				○		1				兼2
	情報通信テクノロジーⅠ	1前		2		○				1				兼2
	情報通信テクノロジーⅡ	1後		2		○				1				兼2
	ICTセキュリティ	2後		2		○								兼1
	基本情報技術	3前		2		○								兼1
	統計基礎	1後		2		○				1				兼2
	統計活用情報分析Ⅰ	2後		2		○								兼1
	統計活用情報分析Ⅱ	2前		2		○								兼1
	小計（10科目）	—	0	20	0	—			0	1	0	0	0	兼6
社会科学	初級ミクロ経済学	2前		2		○								兼1
	初級マクロ経済学	2後		2		○								兼1
	国際経済	2前		4		○								兼1
	経済政策	2後		4		○								兼1
	地域政策	2前		2		○								兼2
	現代アジア経済Ⅰ	3後		2		○								兼1
	現代アジア経済Ⅱ	3前・後		2		○								兼1
	現代中国経済	3後		2		○								兼1
	現代アメリカ経済	3前		2		○								兼1
	公共政策	3後		2		○								兼2
	中級統計学	2後		4		○								兼1
	計量経済Ⅰ	3前		2		○								兼1
	計量経済Ⅱ	3後		2		○								兼1
	ビジネスデータ分析	3前		2		○								兼1
	入門民法 財産法編Ⅰ	2前		2		○								兼2
	入門民法 財産法編Ⅱ	2後		2		○								兼1
	入門商法 会社法編	2後		2		○			1					
	入門ビジネス法務	2前		2		○								兼4
	実践ビジネス法務	2後		2		○								兼4
法学・政治学	ビジネスを支える法の世界	3後		2		○								兼3
	公共政策論Ⅰ	2前		2		○			1					
	公共政策論Ⅱ	2後		2		○			1					
	知的財産とイノベーションⅠ	2前		2		○								兼1
	知的財産とイノベーションⅡ	2後		2		○								兼1
	国際法Ⅰ	2前		2		○								兼1

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
法学・政治学 社会科学 経営学	法学・政治学	国際法Ⅱ	2後		2		○								兼1		
		国際政治学Ⅰ	2前		2		○								兼1		
		国際政治学Ⅱ	2後		2		○								兼1		
		経済法Ⅰ	3・4前		2		○			1							
		経済法Ⅱ	3・4後		2		○			1							
	社会科学 経営学	入門マネジメント	2前		2		○									兼2	
		実践マネジメント	2後		2		○									兼2	
		入門ビジネス会計	2前		2		○									兼1	
		実践ビジネス会計	2後		2		○									兼1	
		経営管理論	2前		4		○									兼1	
		経営戦略論	2前		4		○									兼1	
		ベンチャービジネス	2前		4		○									兼1	
		環境経営論	2前		4		○									兼1	
		国際経営論	2後		4		○									兼1	
		アジア経営論	2前		4		○									兼2	
		国際マーケティング論	2後		4		○									兼1	
		経営コンサルティング論	3・4前		2		○									兼12	
留学関連	STAGEアカデミック留学科目Ⅰ	2前		4			○		1							外国留学帰国学生の単位換算科目 外国留学帰国学生の単位換算科目 外国留学帰国学生の単位換算科目 外国留学帰国学生の単位換算科目 外国留学帰国学生の単位換算科目	
	STAGEアカデミック留学科目Ⅱ	2後		4			○		1								
	STAGEアカデミック留学科目Ⅲ	2前		4			○		1								
	STAGEアカデミック留学科目Ⅳ	2後		4			○		1								
	STAGEアカデミック留学科目Ⅴ	2前		4			○		1								
キャリアイン	国際理解Ⅲ（グローバルキャリア）	1前		2			○								兼1		
	ベーシック・キャリアデザイン	1後		2			○								兼1		
	プラクティカル・キャリアデザインⅠ	2前		2			○								兼1		
	プラクティカル・キャリアデザインⅡ	3後		2											兼1		
	小計（51科目）	—	0	132	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	兼70		—
合計（180科目）			—	20	458	0	—	—	9	3	1	0	0	0	兼170	—	
学位又は称号		学士（グローバル教養）		学位又は学科の分野				文学関係・法学関係・経済学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
基礎共通科目 18単位 外国語科目 8単位 保健体育科目 2単位 専門教育科目 102単位以上 演習（20単位） 言語運用力（32単位以上） 国際理解・グローバル力（14単位以上） データサイエンス（8単位以上） 自由選択科目 ※以下の科目は自由選択科目として卒業必要単位数に充てることができる。 ①第3外国語として履修する基礎外国語科目 4単位以内 ②関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（専門科目に含まれるものを除く）12単位以内 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2学期					
								1学期の授業期間				15週					
								1時限の授業時間				90分					

届出又は申請を行った際、事前相談を受けた内容と変更があった場合は、事前相談の結果は無効になる場合がありますので、教育課程等の内容が確定した時点で事前相談を行ってください。

「設置する学部等において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を届出時に授与している既設の学部等」の教育課程等の概要についても、忘れずに添付してください。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(全学共通科目)															
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 共通 科目 (人文学系)	A 群 リ ベ ラ ル ア ー ツ	哲学	1前		2		○								兼1
		倫理学	1前		2		○								兼1
		心理学	1前・後		2		○								兼2
		歴史学	1後		2		○								兼1
		文学	1前		2		○								兼4
		哲学プラクティス	1後		2		○								兼1
		女性学	1前		2		○								兼1
		現代の芸術	1後		2		○								兼1
		宗教学	1後		2		○								兼1
	B 群 人 間 を 学 ぶ	生態人類学	1前		2		○								兼1
		環境と文学	1前		2		○								兼1
		芸術と社会	1前		2		○								兼1
		生命と倫理	1前		2		○								兼1
		人権（同和）の問題	1後		2		○								兼1
		感情・人格心理学	1前・後		2		○								兼2
	C 群 文 化 を 学 ぶ	ことばと社会	1前		2		○								兼3
		コミュニケーション論	1前・後		2		○								兼1
		イメージと文化	1前		2		○								兼1
		日本語の諸相	1前		2		○								兼1
		比較文化	1後		2		○								兼1
		芸術学基礎論	1後		2		○								兼1
		現代思想	1後		2		○								兼1
		近現代の文学	1後		2		○								兼1
		日本研究	1後		2		○								兼1
		越境する文化と文学	1後		2		○								兼3
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○			1					兼5	
	D 群 歴 史 を 学 ぶ	社会思想史	1前		2		○								兼1
		歴史と文化	1前		2		○								兼1
		文学と歴史	1前		2		○								兼1
		地域と文化	1後		2		○								兼2
		芸術史	1前		2		○								兼5
		歴史とメディア	1後		2		○								兼1
		国際化の歴史	1後		2		○								兼1
		生活の歴史	1後		2		○								兼1
小計（34科目）		—	0	68	0	—			1	0	0	0	0	兼48	—
基礎 共通 科目 (社会科学系)	A 群 リ ベ ラ ル ア ー ツ	社会学	1後		2		○								兼1
		法学	1後		2		○								兼1
		経済学	1後		2		○								兼1
		経営学	1前		2		○								兼1
		政治学	1後		2		○								兼1
		地理学	1前		2		○								兼1
		国際関係論	1前		2		○								兼1
	B 群 経 済 を 学 ぶ	産業と経済	1前		2		○								兼1
		企業と情報	1前		2		○								兼1
		歴史と経済	1前		2		○								兼1
		現代社会と企業	1後		2		○								兼1
		世界と経済	1前		2		○								兼1
		暮らしと経済	1後		2		○								兼1
		福祉と経済	1前		2		○								兼1
社会とファイナンス	1前・後		2		○								兼2		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎共通科目（社会科学系）	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○									兼1	—
		現代都市論	1前		2		○									兼1	
		公共哲学	1後		2		○									兼1	
		環境人間学	1後		2		○									兼1	
		社会福祉論	1前		2		○									兼1	
		家族関係論	1前		2		○									兼1	
		歴史と社会	1後		2		○									兼1	
		ボランティア論	1前		2		○									兼1	
		グローバル化と文化	1前		2		○									兼1	
		地域連携入門	1後		2		○				1					兼1	
	地域とメディア	1後		2		○									兼1		
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○									兼2	
		社会生活と法	1前		2		○									兼1	
		現代政治論	1後		2		○									兼1	
		法と情報	1後		2		○									兼1	
		環境法学	1後		2		○									兼1	
		家族関係と法	1後		2		○									兼2	
		少子高齢社会と法	1後		2		○									兼2	
		財産と法	1後		2		○									兼2	
消費者問題		1後		2		○				1					兼2		
市場と法	1後		2		○									兼2			
基礎共通科目（自然科学系）	A群 リベラルアーツ	数学	1前		2		○									兼1	
		物理学	1後		2		○									兼2	
		化学	1後		2		○									兼1	
		生物学	1前		2		○									兼1	
		地学	1後		2		○									兼1	
		生命化学	1後		2		○									兼7	
	B群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	1前		2		○									兼1	
		生物の歴史	1後		2		○									兼1	
		自然と人間	1前		2		○									兼1	
		自然科学史	1前		2		○									兼1	
技術の歴史		1前		2		○									兼1		
C群 現代科学を学ぶ	環境と地理	1後		2		○									兼1		
	現代生活と物理学	1前		2		○									兼5		
	現代生活と生物学	1後		2		○									兼1		
	現代生活と数理科学	1後		2		○									兼2		
	現代生活と最先端科学	1前		2		○									兼4		
	核と環境	1後		2		○									兼2		
	環境の化学	1後		2		○									兼1		
	大気と海洋	1前		2		○									兼1		
	国際化と情報ネットワーク	1前		2		○									兼1		
	国際社会における最先端科学	1後		2		○									兼4		
D群 情報を学ぶ	現代生活と生命化学	1後		2		○									兼8		
	Science in the World Today	1前		2		○									兼1		
	Science, Technology and SDGs	1後		2		○									兼1		
	Science News	1前		2		○									兼1		
	知能情報	1後		2		○									兼1		
基礎共通科目（自然科学系）	情報系	生体情報	1後		2		○									兼1	
		感性情報	1後		2		○									兼1	
		生命情報	1後		2		○									兼2	
		認知科学	1後		2		○									兼1	
		小計（30科目）	—	0	60	0	—			0	0	0	0	0	兼48	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎共通科目	学際融合系	情報社会のセキュリティ	1前・後	2		○								兼1
		食品科学	1後	2		○								兼1
		保健衛生	1後	2		○								兼2
		癒しの諸相	1前	2		○								兼2
		自己の探求	1後	2		○								兼4
		心の健康科学	1前	2		○								兼1
		環境教育の実践	1前	2		○								兼8
		ケアの倫理	1後	2		○								兼1
		人体の構造と機能及び疾病	1後	2		○								兼1
		フロントランナー講座	1後	2		○								兼11
		ライフプラン教育	1後	2		○								兼6
		社会を読み解く（クリティカルシンキング）	1前・後	2		○				1				
		文章表現論	1前・後	2		○				1				
		小計（13科目）	—	0	26	0	—		0	1	0	0	0	兼36 —
	国際言語文化系	国際理解English	1後	2		○								兼1
		English for Science	1前	2		○								兼1
		Science Writing	1後	2		○								兼1
		ヨーロッパの文化を学ぶ	1前	2		○				1				兼2
		アジアの文化を学ぶ	1前	2		○								兼3
		ヨーロッパの言語と社会	1後	2		○				1				兼1
		アジアの言語と社会	1後	2		○								兼3
		国際理解	1前・後	2		○								兼1
		Japan Topics	1後	2		○								兼1
		Culture Topics I	1後	2		○								兼1
		Culture Topics II	1前	2		○								兼1
		日本理解	1前	2		○								兼1
		小計（12科目）	—	0	24	0	—		0	1	0	0	0	兼12 —
	スポーツ健康系	スポーツ文化論	1後	2		○								兼1
		生涯スポーツ論	1前	2		○			1					
		健康と生命科学	1前	2		○								兼1
		トレーニング論	1後	2		○								兼1
		スポーツ運動学	1前	2		○			1					
		スポーツマネジメント	1後	2		○								兼1
		基礎スポーツ健康科学	1後	2		○								兼1
		スポーツ医学	1前	2		○								兼1
		運動生理学	1後	2		○								兼1
		スポーツ心理学	1前	2		○								兼1
		スポーツコーチング論	1後	2		○								兼3
		小計（11科目）	—	0	22	0	—		1	0	0	0	0	兼5 —
	導入共通科目	甲南大学と平生夙三郎	1前・後	2		○			1					兼4
		共通基礎演習	1前・後	2			○		3	2	1			兼8
		IT基礎	1前・後	2				○		1				兼7
		AI・データサイエンス入門	1後	2		○				1				兼2
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		3	2	1	0	0	兼20 —
外国語科目	基礎外国語	College English Reading and Writing	1前	2		○			2					
		College English Listening	1前	1		○			2					
		College English Speaking	1前	1		○			1					
		基礎ドイツ語Ⅰ	1通	2		○				1				兼2
		基礎ドイツ語Ⅱ	1通	2		○								兼2
		基礎フランス語Ⅰ	1通	2		○								兼2
		基礎フランス語Ⅱ	1通	2		○								兼2
		基礎中国語Ⅰ	1通	2		○								兼6
		基礎中国語Ⅱ	1通	2		○								兼6
		基礎韓国語Ⅰ	1通	2		○								兼8

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	基礎外国語	基礎韓国語Ⅱ	1通		2		○								兼7	
		大学日本語入門Ⅰ	1通		2		○								兼1	
		大学日本語入門Ⅱ	1通		2		○								兼1	
		小計（13科目）	－	0	24	0	－			3	1	0	0	0	兼35	－
保健体育科目	基礎体育	基礎体育学演習	1通	2					○	1					兼7	
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼7	－
合計（157科目）			－	2	310	0	－			7	3	1	0	0	兼221	－
学位又は称号		学士（グローバル教養）		学位又は学科の分野				：								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基礎共通科目 18単位 外国語科目 8単位 保健体育科目 2単位 専門教育科目 102単位以上 演習（20単位） 言語運用力（32単位以上） 国際理解・グローバル力（14単位以上） データサイエンス（8単位以上） 自由選択科目 ※以下の科目は自由選択科目として卒業必要単位数に充てることができる。 ①第3外国語として履修する基礎外国語科目 4単位以内 ②関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目およびキャリア創生共通科目（専門科目に含まれるものを除く）12単位以内 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

届出又は申請を行った際、事前相談を受けた内容と変更があった場合は、事前相談の結果は無効になる場合がありますので、教育課程等の内容が確定した時点で事前相談を行ってください。

「設置する学部等において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を届出時に授与している既設の学部等」の教育課程等の概要についても、忘れずに添付してください。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(法学部法学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
A 専門基礎	公法入門	1前		2		○			1	2				
	民事法入門	1前		2		○			2					
	刑事法入門	1前		2		○			2					
	政治学入門	1前		2		○			1	1				
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			6	3	0	0	0	—
B 基礎法	法社会学Ⅰ	1前		2		○			1					
	法社会学Ⅱ	1後		2		○			1					
	西洋法史Ⅰ	1前		2		○			1					
	西洋法史Ⅱ	1後		2		○			1					
	日本法史Ⅰ	2前		2		○								兼1
	日本法史Ⅱ	2後		2		○								兼1
	英米法Ⅰ	3・4前		2		○			1					
	英米法Ⅱ	3・4後		2		○								兼1
	アジア法	3・4後		2		○								兼1
	比較法文化論	3・4後		2		○			1					
	法哲学Ⅰ	3・4前		2		○								兼1
	法哲学Ⅱ	3・4前		2		○								兼1
	小計（12科目）	—	0	24	0	—			2	0	0	0	0	兼4
C 政治	西洋政治史Ⅰ	1前		2		○			1					
	西洋政治史Ⅱ	1前		2		○			1					
	日本政治史Ⅰ	1前		2		○			1					
	日本政治史Ⅱ	1後		2		○			1					
	行政学Ⅰ	2前		2		○				1				
	行政学Ⅱ	2後		2		○				1				
	国際政治学Ⅰ	2前		2		○			1					
	国際政治学Ⅱ	2後		2		○			1					
	外交史Ⅰ	2前		2		○								兼1
	外交史Ⅱ	2後		2		○								兼1
	グローバル地域研究	3・4前		2		○								兼1
	アメリカ地域研究	3・4前		2		○								兼1
	アジア地域研究	3・4前		2		○								兼1
	政治学原論	2前		2		○								兼1
	現代政治学Ⅰ	3・4前		2		○								兼1
	現代政治学Ⅱ	3・4前		2		○								兼1
	政治過程論Ⅰ	3・4前		2		○								兼1
	政治過程論Ⅱ	3・4後		2		○								兼1
	日本政治思想史Ⅰ	3・4前		2		○			1					
	日本政治思想史Ⅱ	3・4後		2		○			1					
	西洋政治思想史Ⅰ	3・4前		2		○								兼1
	西洋政治思想史Ⅱ	3・4後		2		○			1					
	小計（22科目）	—	0	44	0	—			3	1	0	0	0	兼7
D 公法	憲法Ⅰ	1後		2		○			1	1				
	憲法Ⅱ	2前		2		○			2					
	憲法Ⅲ	3・4後		2		○			1					
	比較憲法	3・4後		2		○			1					
	行政法総論Ⅰ	2前		2		○			1	1				
	行政法総論Ⅱ	2後		2		○			1					
	行政救済法Ⅰ	3・4後		2		○			1					
	行政救済法Ⅱ	3・4後		2		○			1					
	地方自治	3・4前		2		○								兼1
	税法Ⅰ	3・4後		2		○								兼1
	税法Ⅱ	3・4前		2		○								兼1
	国際法Ⅰ	2前		2		○								兼1
	国際法Ⅱ	2後		2		○								兼1
	国際法Ⅲ	3・4後		2		○								兼1
	刑法総論Ⅰ	1後		2		○				1				
	刑法総論Ⅱ	2前		2		○				1				
	刑法各論Ⅰ	2後		2		○				1				
	刑法各論Ⅱ	3・4前		2		○				1				
	刑事訴訟法Ⅰ	2後		2		○			1					
	刑事訴訟法Ⅱ	3・4前		2		○			1					
	刑事政策	1後		2		○			1					
	犯罪学	3・4後		2		○								兼1
	小計（22科目）	—	0	44	0	—			5	4	0	0	0	兼4

E 民 事 法	民法総則Ⅰ	1後	2	○		1	1	1									
	民法総則Ⅱ	2前	2	○		2											
	物権法Ⅰ	2前	2	○		1		1									
	物権法Ⅱ	3・4後	2	○		1											
	債権法Ⅰ	2後	2	○										兼1			
	債権法Ⅱ	2前	2	○		1											
	不法行為法	1後	2	○		1		1						兼1			
	親族法	2前	2	○		1											
	相続法	2後	2	○										兼1			
	国際私法Ⅰ	3・4前	2	○		1											
	国際私法Ⅱ	3・4後	2	○		1											
	商法Ⅰ	2後	2	○		2											
	商法Ⅱ	3・4前	2	○		2											
	商法Ⅲ	3・4後	2	○		1											
	商法Ⅳ	3・4後	2	○		1											
	商法Ⅴ	3・4後	2	○		1											
	民事訴訟法Ⅰ	3・4前	2	○		1											
	民事訴訟法Ⅱ	3・4後	2	○		1											
	民事訴訟法Ⅲ	3・4後	2	○		1											
	労働法Ⅰ	2前	2	○										兼1			
	労働法Ⅱ	3・4休	2	○										兼1			
	社会保障法Ⅰ	3・4休	2	○										兼1			
	社会保障法Ⅱ	3・4休	2	○										兼1			
	知的財産法Ⅰ	3・4前	2	○										兼1			
	知的財産法Ⅱ	3・4前	2	○										兼1			
	経済法Ⅰ	3・4前	2	○		1											
	経済法Ⅱ	3・4後	2	○		1											
	小計（27科目）	-	0	54	0	-	8	1	1	0	0	兼8	-				
F 隣 接 領 域	初級ミクロ経済学	3・4前	2	○								兼1					
	初級マクロ経済学	3・4前	2	○								兼1					
	経営学総論	3・4前	4	○								兼1					
	会計学総論	3・4前	4	○								兼1					
	マーケティング総論	3・4前	4	○								兼1					
	司法・犯罪心理学	3・4後	2	○								兼1					
	日本史概説Ⅰ	2後	2	○								兼1					
	日本史概説Ⅱ	2後	2	○								兼1					
	アジア史概説Ⅰ	2後	2	○								兼1					
	アジア史概説Ⅱ	2前	2	○								兼1					
	西洋史概説Ⅰ	2前	2	○								兼1					
	西洋史概説Ⅱ	2後	2	○								兼1					
	労働経済Ⅰ	3・4前・後	2	○								兼1					
	労働経済Ⅱ	3・4前・後	2	○								兼1					
	財政	3・4前	4	○								兼1					
	国際経済	3・4前	4	○								兼1					
	公共経済	3・4前	4	○								兼2					
	経営管理論	3・4前	4	○								兼2					
	経営戦略論	3・4前	4	○								兼1					
	財務諸表論	3・4前	4	○								兼1					
	ベンチャービジネス	3・4前	4	○								兼1					
	ソーシャル・キャピタル論	3・4後	2	○								兼1					
	家族社会学	3・4後	2	○								兼1					
	現代家族論	3・4前	2	○								兼1					
	福祉法政策	3・4休	2	○								兼1					
	司法福祉論	3・4後	2	○								兼1					
	ジェンダー法学	3・4前	2	○								兼1					
	環境学入門	3・4前	2	○								兼1					
	環境学	3・4後	2	○								兼1					
	NPO／NGO論	3・4前	2	○								兼1					
	社会人間学	2前	2	○								兼1					
	社会学概論	2後	2	○								兼1					
	社会心理学	3・4前	2	○								兼1					
	社会意識論	3・4後	2	○								兼1					
	小計（34科目）	-	0	88	0	-	0	0	0	0	0	兼33	-				
G 情 報	ビジネスシステム論	3・4前	4	○								兼1					
	法学部情報処理Ⅰ	2前	2	○								兼1					
	法学部情報処理Ⅱ	2後	2	○								兼1					
	小計（3科目）	-	0	8	0	-	0	0	0	0	0	兼2	-				

H 演習	基礎演習	1前	2			○		16	6	1					【オムニバス】 <
---------	------	----	---	--	--	---	--	----	---	---	--	--	--	--	--

届出又は申請を行った際、事前相談を受けた内容と変更があった場合は、事前相談の結果は無効になる場合がありますので、教育課程等の内容が確定した時点で事前相談を行ってください。

「設置する学部等において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を届出時に授与している既設の学部等」の教育課程等の概要についても、忘れずに添付してください。

—基本計画書—20—

実践・創造科目	経済学の実践	産業と規制	2前		2		○								兼1	
		経済と社会	2後		2		○								兼1	
		雇用と賃金	2後		2		○				1					
		こころと経済	2前・後		2		○								兼1	
		地球環境政策	2後		2		○								兼1	
		公共政策	2前		2		○									
		国際金融と貿易	2前・後		2		○								兼1	
		経済成長と国際協力	2前		2		○			1						
		ミクロ経済と現代社会	2前		2		○				1					
		マクロ経済と現代社会	2前		2		○								兼1	
		小計 (10科目)		0	20	0	-			1	2				兼6	-
	経営学の実践	組織論	2後		2		○								兼1	
		イノベーション・マネジメント	2前		2		○								兼1	
		経営財務分析	2前		2		○								兼1	
		戦略論	2前		2		○								兼1	
		会計基礎	2前		2		○				1					
		会計応用	2前		2		○								兼1	
		ファイナンス基礎	2前・後		2		○								兼1	
		コーポレートファイナンス	2前		2		○				1					
		マーケティング基礎	2前		2		○				1					
		マーケティングとCSR	2後		2		○				1					
		マーケティングリサーチ	2前		2		○				1					
		消費者行動	2後		2		○				1					
		NPO	2前		2		○								兼2	
		中小企業経営	2前		2		○								兼1	
		小計 (14科目)		0	28	0	-				4				兼9	-
	社会の現状認識	社会問題と思想	2後		2		○			1						
		社会問題と制度	2前		2		○			1						
		都市政策	2前		2		○								兼1	
		社会保障	2前		2		○								兼1	
		少子化と人口問題	2後		2		○								兼1	
		国際関係と多文化共生	2後		2		○			1						
		国際通商	2後		2		○								兼1	
		ビジネスと法	2前		2		○								兼2	
		小計 (8科目)		0	16	0	-			2					兼6	-
		Academic Subjects I	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		Academic Subjects II	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		Academic Subjects III	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		Academic Subjects IV	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		Academic Subjects V	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		Academic Subjects VI	2前・後		3		○			1						外国留学帰国学生の単位換算科目
		小計 (6科目)		0	18	0	-			1						-
プロジェクト科目	プロジェクト導入科目	ITの実践	1後		2		○								兼1	
		情報の科学	1後		2		○			1						
		データ分析の実践	1後		2		○			1			1			
		データ分析とプログラミング	2前		2		○								兼1	
		社会調査	1後		2		○								兼1	
		政策評価の手法	1後		2		○								兼1	
		英語で学ぶ経済学	1後		2		○								兼1	
		英語で学ぶ経営学	1後		2		○								兼2	
		Liberal Studies in English	1前・後		2		○				1				兼2	
		Regional Studies	1前・後		2		○				1				兼3	
		小計 (10科目)		0	20	0	-			2		1	1		兼10	-
	研究プロジェクト科目	パブリック研究プロジェクトB I	2前		6		○			3	2		1		兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトB II	2後		6		○			3	2		1		集中	
		パブリック研究プロジェクトB III	3前		6		○			3	2		1		兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトB IV	3後		6		○			3	2		1		集中	
		パブリック研究プロジェクトB V	4前・後		6		○			4	2		1		兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトB I	2前		6		○			2	5				兼2	集中
		ビジネス研究プロジェクトB II	2後		6		○			3	5				兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトB III	3前		6		○			2	5				兼2	集中
		ビジネス研究プロジェクトB IV	3後		6		○			3	5				兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトB V	4前・後		6		○			3	6				兼3	集中
		グローバル研究プロジェクトB I	2前		6		○			4	1				兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトB II	2後		6		○			4	1				集中	
		グローバル研究プロジェクトB III	3前		6		○			4	1				兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトB IV	3後		6		○			4	1				集中	
		グローバル研究プロジェクトB V	4前・後		6		○			4	1				兼1	集中
		超領域研究プロジェクトB I	2前・後		6		○			1	1				集中	
		超領域研究プロジェクトB II	2前・後		6		○			1	1				集中	
		超領域研究プロジェクトB III	2前・後		6		○			1	1				集中	

プロジェクト科目	研究プロジェクト科目	パブリック研究プロジェクトAⅠ	2前	4				○								兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトAⅡ	2後	4				○								兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトAⅢ	3前	4				○								兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトAⅣ	3後	4				○								兼1	集中
		パブリック研究プロジェクトAⅤ	4前・後	4				○								兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトAⅠ	2前	4				○								兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトAⅡ	2後	4				○			1						集中
		ビジネス研究プロジェクトAⅢ	3前	4				○								兼1	集中
		ビジネス研究プロジェクトAⅣ	3後	4				○			1						集中
		ビジネス研究プロジェクトAⅤ	4前・後	4				○			1					兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトAⅠ	2前	4				○								兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトAⅡ	2後	4				○								兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトAⅢ	3前	4				○								兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトAⅣ	3後	4				○								兼1	集中
		グローバル研究プロジェクトAⅤ	4前・後	4				○								兼1	集中
		超領域研究プロジェクトAⅠ	2前・後	4				○								兼1	
		超領域研究プロジェクトAⅡ	2前・後	4				○								兼1	
		超領域研究プロジェクトAⅢ	2前・後	4				○								兼1	
		小計(36科目)	1	0	180	0		-		7	6		1			兼8	-
	フィールドワーク科目	国内短期フィールドワークⅠ	1前・後	2				○		3	1					兼4	集中 一部単位換算科目
		国内短期フィールドワークⅡ	1前・後	2				○		3	1					兼4	集中 一部単位換算科目
		国内短期フィールドワークⅢ	1前・後	2				○		3	1					兼4	集中 一部単位換算科目
		国内短期フィールドワークⅣ	1前・後	2				○		3	1					兼4	集中 一部単位換算科目
		国内短期フィールドワークⅤ	1前・後	2				○		3	1					兼4	集中 一部単位換算科目
		国内中期フィールドワークⅠ	1前・後	3				○		3	1					兼1	集中 一部単位換算科目
		国内中期フィールドワークⅡ	1前・後	3				○		3	1					兼1	集中 一部単位換算科目
		国内中期フィールドワークⅢ	1前・後	3				○		3	1					兼1	集中 一部単位換算科目
		国内長期フィールドワークⅠ	1前・後	4				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外短期フィールドワークⅠ	1前・後	2				○		3	2						集中 一部単位換算科目
		海外中期フィールドワークⅠ	1前・後	3				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外中期フィールドワークⅡ	1前・後	3				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外中期フィールドワークⅢ	1前・後	3				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外長期フィールドワークⅠ	1前・後	4				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外長期フィールドワークⅡ	1前・後	4				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外長期フィールドワークⅢ	1前・後	4				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		海外長期フィールドワークⅣ	1前・後	4				○		3	1						集中 一部単位換算科目
		小計(17科目)		0	50	0		-		3	2					兼4	-
		卒業研究プロジェクト	4通	8				○		7	6						集中(通年)
		小計(1科目)		8	0	0		-		7	6						-
キャリア関連科目	ボランティア	ボランティア体験Ⅰ	1前・後	4				○		1							集中 単位換算科目
		ボランティア体験Ⅱ	1前・後	4				○		1							集中 単位換算科目
		ボランティア体験Ⅲ	1前・後	2				○		1							集中 単位換算科目
		ボランティア体験Ⅳ	1前・後	2				○		1							集中 単位換算科目
		小計(4科目)		0	12	0		-		1							-

キャリア関連科目	インターンシップ	インターンシップⅠ	1前・後		4				○	1						集中 単位換算科目	
		インターンシップⅡ	1前・後		4				○	1						集中 単位換算科目	
		インターンシップⅢ	1前・後		2				○	1						集中 単位換算科目	
		インターンシップⅣ	1前・後		2				○	1						集中 単位換算科目	
		小計(4科目)		0	12	0		-		1						-	
	コミュニケーション支援	コミュニケーション支援Ⅰ	2前・後		2				○				1			兼2	
		コミュニケーション支援Ⅱ	2後		2				○							兼1	
		コミュニケーション支援Ⅲ	2後		2				○							兼1	
		コミュニケーション支援Ⅳ	2前		2				○							兼1	
		コミュニケーション支援Ⅴ	2後		2				○							兼1	
		小計(5科目)		0	10	0		-				1			兼6	-	
	特設科目	特設科目Ⅰ	3前・後		2											兼1	
		特設科目Ⅱ	3前・後		2											兼1	
		特設科目Ⅲ	3前・後		2											兼1	
		小計(3科目)		0	6	0		-							兼3	-	
	外国語・中級・上級科目	大学日本語中級Ⅰ	2通		4											兼1	外国人留学生用科目
		大学日本語上級Ⅰ	3・4通		4											兼1	外国人留学生用科目
小計(2科目)		-	0	8	0		-								兼1	-	
合計(174科目)			-					-		7	6	3	1		兼85	-	
学位又は称号		学士(マネジメント)			学位又は学科の分野				経済学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
導入基礎科目 フレーム形成科目 必修 18単位 外国語科目 Core科目 必修 14単位 Applied科目 自由選択 Accelerated科目 自由選択 体育科目 必修 2単位 リベラル教育科目 選択必修 10単位 実践・創造科目 選択必修 24単位 プロジェクト科目 プロジェクト導入科目 研究プロジェクト科目 フィールドワーク科目 卒業研究プロジェクト科目 必修 8単位 キャリア関連科目 自由選択 特設科目 自由選択 中級・上級外国語科目 留学生用科目 合計124単位以上 ※大学日本語科目(大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ、大学日本語上級Ⅰ)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生のみ履修することができる。 (履修科目の登録の上限:36単位(1年次・年間),40単位(2年次以上・年間))									1学年の学期区分				2学期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業時間				90分				

届出又は申請を行った際、事前相談を受けた内容と変更があった場合は、事前相談の結果は無効になる場合がありますので、教育課程等の内容が確定した時点で事前相談を行ってください。

「設置する学部等において授与する学位と同一の種類及び分野の学位を届出時に授与している既設の学部等」の教育課程等の概要についても、忘れずに添付してください。

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
S T A G E 演 習	STAGE演習ⅠA	1年次前期に開講されるこの演習はこれからSTAGEプログラムで学んでいくために必要な4年間の見通しを立てる意味で大切なものとなる。学生は資料収集・レポートの書き方・プレゼンテーションの方法など大学での基本的な学びの手法を身につけるだけでなく、STAGE生として留学への動機づけを高める。入学後の早い時期にSTAGEで学ぶ学生同士および教員との学びのコミュニティ作りのために白川台キャンパスでSTAGE演習全クラスが合宿を行い、なぜ留学するのか、どこに留学するのか、2つの留学をどう組み合わせるか等留学の計画を立てる。演習は異文化理解・コミュニケーション、国際問題等の分野において、グループでテーマを見出し、研究発表を行う。学生はラーニング・ポートフォリオをつける。ポートフォリオはラーニング・ログ(学びの内容の記録)、プラクティス・ログ(実践の記録)、リフレクション・ログ(ふり返りの記録)の観点で構成されており、学生は自らの学びのプロセスを言語化することでふり返りを進めていく。	
	STAGE演習ⅠB	1年次後期に開講されるこの演習では、学生は前期に引き続き、それぞれのグループが取り組む異文化理解等のテーマについてグループワークを行うとともに、個々の学生として具体的な留学の準備も始める。自分自身の研究テーマを探り、留学先の歴史、文化、政治、経済等も調べてラーニング・ポートフォリオを活用する。また留学にそなえて自国の文化、社会について英語等外国語で説明し、自分の意見を英語等外国語で表明できることを目指す。学生はリサーチフェスタ等で1年間のグループワークの成果を発表する。またこの演習で学生は留学生と本学学生の交流の場でもあるセルフアクセスセンターで、イベントなどの企画運営に積極的に携わることで、異文化調整能力やリーダーシップの涵養に努める。	
	STAGE演習ⅡA	2年次前期に開講されるこの演習では、学生は後期から始まる留学渡航前の準備を行う。1年後期に引き続き、自分自身の研究テーマを深めて、ラーニング・ポートフォリオを活用し、留学先の歴史、文化、政治、経済等を調べる。自国の文化、社会についても説明ができるようになることが目標である。また言語教育をベースにしたサービ斯拉ーニング(地域貢献活動)も演習単位で行う。このサービ斯拉ーニングにはYiJ (Year in Japan:協定校から本学に1年間留学するプログラム)等の留学生も参加できるため、国際交流体験につながる。留学から帰国した後に本格的なグローバル支援を開始する予定であるが、留学前にもその前身となるサービ斯拉ーニングを行う。	
	STAGE演習ⅡB	この演習が開講される2年次後期は、大多数の学生は長期留学に出発する予定であるが、留学の計画は個人によって異なるので、演習はオンラインと対面のハイブリッドで行う。留学中の学生は自身の活動を報告し、教員はアドバイスや支援を行う。個々の学生はラーニング・ポートフォリオを継続し、自らの研究テーマを発展させる。また、前期に引き続き、サービ斯拉ーニングを行う。具体的には本学がライオンズクラブと連携して世界でメガネを必要としている人々にメガネを届けるメガネプロジェクト等を予定している。	
	STAGE演習ⅢA	この演習が開講される3年次前期は、学生は原則として長期留学中であるため、演習はオンラインと対面のハイブリッド形式で行い、教員は留学や海外体験へのアドバイスや支援を行う。留学している学生は、留学先の大学生活や学習の状況等を報告する。個々の学生はラーニング・ポートフォリオを継続し、自らの研究テーマを発展させる。前期の6月頃に帰国する学生は帰国の報告を兼ねて留学での学びをLOFTにおいて公開プレゼンテーション形式で発表する。また日本にいる学生を中心に海外の協定校とCOIL(Collaborative Online International Learning)を行い、SDGs等の問題解決に取り組む。	
	STAGE演習ⅢB	この演習が開講される3年生後期は、多くの学生は帰国している予定であるが、まだ留学中の学生は引き続きオンラインで演習に参加する。帰国した学生は帰国報告を兼ねた留学の学びをグローバルゾーンのLOFTにおいて公開プレゼンテーション形式で発表する。帰国した学生は、企業・行政・団体との連携によるグローバル実践科目を履修し、社会貢献に向けた取り組みを行う。この演習においても、学生はラーニング・ポートフォリオを活用し、卒業に向けて自分の研究テーマを見直し、研究を深める。また前期に引き続き、海外の協定校とのCOILに取り組む。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習	STAGE演習Capstone	この演習では二つの留学を終えた4年生が留学・海外体験やグローバル実践活動で得た知見と経験、データサイエンスや社会科学の学びによる論理的思考力を活かして、卒業研究に取り組む。卒業研究には、自分の研究テーマを論文にまとめる卒業論文や、グループでプロジェクトに取り組む卒業プロジェクトがある。学生は研究テーマや概要を書いた卒業研究の研究計画書を提出し、研究活動を行う。卒業研究の成果は、後期にSTAGE卒業研究発表会をLOFTにおいて実施し、公開プレゼンテーション形式で発表する。	
言語運用力	中級英語Writing	This course continues to develop the basic writing skills that students practiced in College English Reading and Writing. However, in this course students improve their ability to write various kinds of texts. Students begin by writing paragraphs, and then short, multi-paragraph essays. この講義では、College English Reading and Writingで練習した基本的なライティングスキルである、さまざまな種類の文章を書く能力を向上させる。まず、パラグラフを書くことから始め、次に短い複数パラグラフのエッセイを書く。	
	中級英語Presentation	This course aims to develop students' confidence in speaking in front of an audience, and to improve their ability to organize and present a variety of speeches. Pair work and group work are common as we analyze model speeches and prepare new speeches. Some of the speech skills we cover include: speech organization, eye contact and gestures, word stress and intonation, and a variety of openers and closers. この講義は、聴衆の前で自信をもって話すことができるようになると共に、さまざまなスピーチを作り上げ発表する能力を向上させることを目的とする。授業ではペアワークやグループワークを通して、モデルスピーチを分析し、新しいスピーチを準備する。具体的には、スピーチの構成、アイコンタクトとジェスチャー、言葉のストレスとイントネーション、さまざまなオープニングとクロージングの方法など、スピーチに関わるさまざまなスキルを学ぶ。	
	中級英語Speaking	This course continues to develop the skills that students practiced in College English Speaking. However, in this course, more emphasis is placed on improving students' ability to express ideas and opinions about a variety of topics. この講義は、College English Speakingで練習したスキルを引き続き発展させ、さまざまなトピックについてアイデアや意見を表現する能力を向上させることに、より重点を置く。	
	中級英語Global Topics I	This single-semester integrated skills course aims to improve overall language proficiency while placing a special emphasis on the micro-skills associated with English for General Academic Purposes. The content addresses issues of global importance and allows for comparative analyses. この講義は、総合的な言語能力の向上を目指す一方で、アカデミックな内容に対する英語に関連する個別の能力養成に特に重点を置く。内容は、世界的に重要な問題を取り上げ、比較分析ができるようになっている。	
	中級英語Global Topics II	This single-semester integrated skills course aims to improve overall language proficiency while placing a special emphasis on the micro-skills associated with English for General Academic Purposes at a higher level. The content addresses issues of global importance and allows for comparative analyses. この講義は、総合的な言語能力の向上を目指す一方で、アカデミックな内容に対するより高度なレベルの英語に関連する個別の能力養成に特に重点を置く。内容は、世界的に重要な問題を取り上げ、比較分析ができるようになっている。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語 運用力	中級英語Listening	This course continues to develop the skills that students practiced in College English Listening. However, in this course more emphasis is placed on understanding spoken texts such as news reports, interviews, documentary reports, and dramas. この講義は、College EnglishのListeningで練習したスキルをさらに発展させ、ニュースレポート、インタビュー、ドキュメンタリーレポート、ドラマなどの音声テキストを理解することに重点を置く。	
	中級英語Reading	This course continues to develop the reading skills that students practiced in College English Reading and Writing. However, in this course students read longer, more sophisticated passages. In addition, emphasis is placed on helping students express their reactions to and opinions about what they have read. この講義は、College English Reading and Writingで練習したリーディングスキルを引き続き発展させ、より長く、より洗練された文章を読む。また、読んだ文章に対する反応や意見を表現できるようにすることに重点を置く。	
	中級英語Pronunciation	Both of Intermediate English Pronunciation I and II, single-semester courses aim to develop students' English pronunciation ability. More emphasis is placed on acquiring a clear and intelligible pronunciation for international communication than on becoming a native-like speaker of English. この講義は、英語の発音能力を高めることを目的とする。ネイティブ並みの英語力を身につけることよりも、国際的なコミュニケーションに対応できる明瞭な発音の習得に重点を置く。	
	中級英語TOEIC	The Intermediate TOEIC course is divided into three levels. The PS section is for students with little or no experience with the TOEIC test and aims for a score of at least 400-450 points by the end of the course. The MS section aims for a score of at least 450-500 points. The TS section aims for a score of at least 500-600 points. この講義は、3つのレベルに分かれている。PSセクションは、TOEICテストの経験がほとんどない学生を対象とし、コース終了までに400～450点以上のスコアを目指す。MSセクションは、450～500点以上を目指す。TSセクションは、500～600点以上を目指す。	
	中級英語Life Topics I	This single-semester integrated skills course aims to improve overall language proficiency while placing a special emphasis on reflection and self-expression. The content addresses humanistic themes and lifestyle issues that are meant to help students develop into benevolent, well-adjusted, and content individuals. この講義は、内省と自己表現に特に重点を置きながら、総合的な言語能力の向上を目指す。人間的なテーマや生活習慣の問題を取り上げ、学生が善良で適応力のある、豊かな人間に成長できるような内容になっている。	
	中級英語Life Topics II	This single-semester integrated skills course aims to improve overall language proficiency while placing a special emphasis on reflection and self-expression. The content addresses humanistic themes and lifestyle issues of greater depth that are meant to help students develop into benevolent, well-adjusted, and content individuals. この講義は、内省と自己表現に特に重点を置きながら、総合的な言語能力の向上を目指す。人間的なテーマや生活習慣に関するより深い内容の問題を取り上げ、学生が善良で適応力のある、豊かな人間に成長できるような内容になっている。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語 運用力	中級英語Career English I	This single-semester course aims to help students develop language and intercultural skills needed to function successfully in international work contexts such as international corporations as well as in hospitality and service industries that cater to non-Japanese. この講義は、国際企業や外国人向けの接客・サービス業など、国際的な仕事の場で成功するために必要な言語および異文化対応能力を身につけることを目的とする。	
	中級英語Career English II	This single-semester course aims to help students develop more advanced language and intercultural skills needed to function successfully in international work contexts such as international corporations as well as in hospitality and service industries that cater to non-Japanese. この講義は、国際企業や外国人向けの接客・サービス業など、国際的な仕事の場で成功するために必要なより高度な言語および異文化対応能力を身につけることを目的とする。	
	上級英語TOEIC	This course is intended for students who are familiar with TOEIC exam. Students will work through answers and explanations, while focusing on important points such as listening, grammar, and reading, with the goal of raising the score to at least 600-700 points. この講義は、TOEICテストに慣れ親しみ、解答、解説を通して、リスニング、文法、リーディング等の重要ポイントをおさえながら総合的に英語力の向上をめざし、最低でも600～700点へのスコアアップを目標とする。	
	上級英語Global Topics I	This integrated skills class aims to improve overall language proficiency and places a special emphasis on the micro-skills associated with English for General Academic Purposes. この講義は、総合的な言語能力の向上を目指し、特にアカデミックな内容に対する英語に関連する個別の能力養成に重点を置く。	
	上級英語Global Topics II	This integrated skills class aims to improve overall language proficiency and places a special emphasis on the micro-skills associated with English for General Academic Purposes at a higher level. この講義は、総合的な言語能力の向上を目指し、特により高度なアカデミックな内容に対する英語に関連する個別の能力養成に重点を置く。	
	上級英語Career English I	This course aims to help students further develop the language and intercultural skills needed to function successfully in international work contexts such as international corporations as well as in hospitality and service industries that cater to non-Japanese. この講義は、国際企業や外国人を対象とする接客業やサービス業など、国際的な仕事の場で成功するために必要な言語能力と異文化対応能力をさらに向上させることを目的とする。	
	上級英語Career English II	This course aims to help students further develop the language and intercultural skills to a practical level needed to function successfully in international work contexts such as international corporations as well as in hospitality and service industries that cater to non-Japanese. この講義は、国際企業や外国人を対象とする接客業やサービス業など、国際的な仕事の場で成功するために必要な言語能力と異文化対応能力を実用的なレベルまで向上させることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
上級英語	上級英語Life Topics I	This course aims to further improve overall language proficiency while placing a special emphasis on reflection and self-expression. The content addresses humanistic themes and lifestyle issues that are meant to help students develop into benevolent, well-adjusted, and content individuals. この講義は、内省と自己表現に特に重点を置きながら、総合的な言語能力をさらに向上させることを目的とする。人間的なテーマや生活習慣の問題を取り上げ、学生が善良で適応力のある、豊かな人間に成長できるような内容とする。	
	上級英語Life Topics II	This course aims to further improve overall language proficiency while placing a special emphasis on reflection and self-expression. The content addresses humanistic themes and lifestyle issues more in depth that are meant to help students develop into benevolent, well-adjusted, and content individuals. この講義は、内省と自己表現に特に重点を置きながら、総合的な言語能力をさらに向上させることを目的とする。人間的なテーマや生活習慣の問題をさらに深く掘り下げ、学生が善良で適応力のある、豊かな人間に成長できるような内容とする。	
言語運用力 ドイツ語	中級ドイツ語 I	ドイツ語圏の文化や社会に関するテキストの読解を通して、実践的なドイツ語の習得を図る。文の文法構造をおさえながら辞書を使って各単語を正確に解釈するだけでなく、テキスト全体の大きな流れや要点を掴めるようにする。また、それらのテキストの表現を利用して新たに文を作成することで、リーディングを出発点としたドイツ語のコミュニケーション能力を養っていく。	
	中級ドイツ語 II	ドイツ語を「話し」・「聞く」、実践的な運用能力を磨く科目である。この学習目標のために、原則、ドイツ語を母語とする教員の指導によるコミュニケーションな学習環境の中で、相手の意向を理解し、基礎的なドイツ語で自分の考えを相手に伝えるトレーニングを行う。	
	中級ドイツ語 III	ドイツ語の総合力を養成する科目である。適宜、「ドイツ語技能検定試験」の3級または4級、および国際的なドイツ語試験のA1・A2レベルの試験の対策も行う。このため、基礎ドイツ語で学習した文法知識の補完、「読む」「書く」「聞く」の3技能のバランス良い養成を目指す。さらに、実用的な手紙文の書き方の指導などにより、ドイツ語の国際的な試験合格のための基礎作りを行う。	
	中級ドイツ語 IV	ドイツ語圏おもにドイツの社会的・文化的な実情を学ぶ科目である。テキストやビデオ映像、インターネット情報などを活用しながら幅広く学習する。生きたドイツの実情に触れながら、ドイツ語力の向上を図るとともに、多角的な視野からドイツ語圏の人々を理解し、その社会が抱える問題への洞察を深め、異文化理解を促す。また、日本の事情と対比することで、異文化だけでなく自文化についての理解を深める。	
	上級ドイツ語 I	これまで培ってきたドイツ語力のみならず、日常生活の経験や興味、知識などを駆使してテキストを理解する読解力を育てる。さらに、多様なテキストの構造・内容を理解してその要旨をすばやく的確にまとめられるようにする。つねに問題意識を持ってテキストに向かう読解力の養成を目指す。さらに、中級ドイツ語 III に引き続き、適宜、「ドイツ語技能検定試験」および国際的なドイツ語検定試験に合格できるドイツ語の総合力を養う。	
	上級ドイツ語 II	中級ドイツ語で培ったドイツ語運用能力を、原則ドイツ語を母語とする教員の指導によって発展させる。コミュニケーション能力だけではなく、言葉を通じてドイツ語圏の文化に親しみ、異文化を理解する心の柔軟性も育てる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
フ ラ ン ス 語	中級フランス語I	「基礎フランス語Ⅰ」で学んだ文法知識を復習し、補完しながら、ゆっくりとフランス語の文章を読む。辞書の引き方に習熟することから始め、文の構造を正確に理解し、内容を把握する練習を行う。また、発音の矯正や簡単な作文練習も適宜行う。さまざまなジャンルのフランス語に触れることで、フランス語の読解力を総合的に養成する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル教養学位プログラム)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
フ ラ ン ス 語	中級フランス語Ⅱ	原則としてフランス語を母語とする教員の指導のもとでフランス語のコミュニケーション能力を養う。日常生活でよく用いられる表現の習得から始めるが、単に相手の問いに答えるだけでなく、自分の意見をフランス語で表現する「発信型」の学習を取り入れ、フランス語での自己表現能力を育成する。		
	中級フランス語Ⅲ	フランス語を「読む」「書く」「聞く」の3つの面から総合的に学習することにより、実用的なフランス語能力を養成する。「基礎フランス語Ⅰ」で習得した文法知識を復習しながら、文部科学省認定の「実用フランス語技能検定試験」(仏検)の3級または4級に合格するための実力をつける。また、インターネット上のフランス語情報の扱い方など、実生活で接するフランス語に対処する練習も行う。		
	中級フランス語Ⅳ	フランスを中心としたフランス語圏の社会・文化的な背景を幅広い視野から理解するための講座である。フランス語圏の社会状況についての知識を習得し、芸術(美術・音楽・映画)や文学への関心を深めることを目指す。		
	上級フランス語Ⅰ	「実用フランス語技能検定試験(仏検)」の3級・準2級・2級に挑戦し、合格するための実力を養う。また、希望者がいれば、DELF(フランス国民教育省公認のフランス語資格試験)も紹介し、練習問題を解く。具体的には、文法事項の復習を行いながら、過去の試験問題などを解いて試験の傾向を掴み、検定試験の対策を立てるが、本質的には、フランス語の総合力を高めることを目的とする。そして、フランス語で発信された記事の大意が掴め、フランス語のニュースやインタビューがある程度、理解できるようにする。また、フランス映画が「日本語字幕なし」でも大部分、理解できるようにする。		
	上級フランス語Ⅱ	フランス語を母語とする教員の指導のもとで、フランス語圏の人々とコミュニケーションを行うのに必要なフランス語の力を養成する。		
言 語 運 用 力	中 国 語	中級中国語Ⅰ	基礎中国語で身につけた学力を応用しながら、現在実際に使われているさまざまなジャンルの中国語の文章を読むことを通して、生きた中国語に馴染み、文法や語彙を増やし、読解力と作文力を高める。中文和訳・和文中訳の練習の積み重ねによって日中両言語の表現の違いを捉えられるようにする。	
		中級中国語Ⅱ	日常会話の練習からスタートし、基礎的な会話能力をマスターする。テーマ別に会話練習や情景会話を行い、より実践的なコミュニケーション能力の開発・育成に努める。1年間の学習後、自己紹介や日常会話ができるようにして、中国人が話す日常会話を聞いて分かるレベルを目指す。	
		中級中国語Ⅲ	基礎中国語で培われた語学力をもとに、とりわけ「読む」「書く」「聞く」に重点を置いた学習をすることにより、「中国語検定試験」の3級または4級の合格に必要な実力をつける。 日常的な題材をもとに、一定の語彙や表現パターンも学習する。	
		中級中国語Ⅳ	日本人と中国人のものの見方、考え方、衣食住、風俗習慣、家庭状況、教育問題、環境問題など幅広い分野にわたり、日本と中国の違いを明らかにすることを通して、中国語はもちろんのこと、中国文化や日本文化の習得もできるように工夫していく。中国の変化に注目しながら、自分の判断力による中国像を完成する。	
		上級中国語Ⅰ	中級中国語で身につけた中国語能力をさらに伸ばし、読解力や作文能力および日中・中日の翻訳能力を高めて、自由自在に表現できる中国語能力の養成を目的とする。	
		上級中国語Ⅱ	中級中国語で身につけた中国語能力を更にのばし、聞く能力や話す能力および日中、中日の通訳能力を高めて、中国語圏とのビジネスや文化交流などにおけるコミュニケーション能力の養成を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（グローバル教養学位プログラム）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
	韓国語	中級韓国語Ⅰ	「基礎韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をもとにして、「読む・書く」技能に重点を置きながら、主に韓国のエッセイや短文を取り上げて読解し、内容と関わる文法事項を並行して学習する。さらに、作文能力を身につけるため、熟語と文型、そして漢字語の学習をするともに、最終的には学習者にスピーチの原稿を書いてもらう。	
言語 運用力	韓国語	中級韓国語Ⅱ	「基礎韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ文法や発音に基づいて、「話す・聞く」技能に重点を置きながら日常生活ができるレベルの会話能力を養成し、その会話能力に相応しい聞き取り能力も備える。会話パターンや熟語を用いた表現の練習、ロールプレーをする。最終的に学習者に台本を書いてもらい、寸劇を行う。	
		中級韓国語Ⅲ	「基礎韓国語Ⅰ・Ⅱ」の知識をベースにして、「話す・聞く・書く・読む」の4技能を、総合的にバランスよく鍛える。検定試験に備えて、問題集を解きながら文法・語彙・慣用句を学習し、検定試験用単語リストを使って作文の練習を行う。	
		中級韓国語Ⅳ	韓国の政治・経済・社会・文化を正確に把握して、急な経済成長を成し遂げた、変貌の著しい現代韓国社会の諸事情を、社会史や文化史の側面から追究する。特に、韓国の映画やドラマを通して韓国文化を幅広く学習し、その理解を深める。	
		上級韓国語Ⅰ	韓国語の難度の高いさまざまな教材（新聞記事・学術論文・雑誌・詩・小説・随筆）を読解して、「読む・書く」の2技能に重点を置く学習を行う。そして、熟語や文型に基づく作文の能力を養い、検定試験に備えて既出問題や対策問題も解く。	
		上級韓国語Ⅱ	韓国語の「聞く・話す」の2技能を重点的に鍛えて、実践的な会話や「聞き取り」の能力を養成する。日常会話に加えて、さまざまな場で対応できる水準の高い言い回しや、速いスピードの「聞き取り」学習を行う。自由討論やテーマ別討論も行って臨機応変に対応できる会話力を身につける。	
	留学 関連	TOEFLⅠ	This TOEFL I course is intended for students with little or no experience with the exam and aims for a score of at least iBT55. Students will become familiar with the format of the TOEFL exam and learn what kinds of questions to expect. To help students develop comprehensive English language skills, each section of listening, reading, speaking, and essay writing will be covered. Classes will include pair work and discussion. TOEFLの経験が全くもしくはほとんどない学生向けの科目である。TOEFL iBT55以上のスコアを目標とする。試験形式に慣れ、予想される出題内容を学び、受験の準備を行う。総合的な英語力をつけるために、リスニング・リーディング・スピーキング・エッセイライティングの各セクションを学ぶ。講義ではペアワークやディスカッションを行う。	
		TOEFLⅡ	This TOEFL II course is intended for students who want to further raise their score by aiming for at least iBT65. Students will deepen their familiarity with the typical question types and gain confidence in taking the exam. To help students develop comprehensive English language skills, each section of listening, reading, speaking, and essay writing will be covered. Classes will include pair work and discussion. TOEFLの経験を積み重ねながらスコアの上昇を目指す学生向けの科目である。TOEFL iBT65以上のスコアを目標とする。典型的な出題内容に慣れ、より自信を持って受験する準備を行う。総合的な英語力をつけるために、リスニング・リーディング・スピーキング・エッセイライティングの各セクションを学ぶ。講義ではペアワークやディスカッションを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
言語 運用力	留学 関連	IELTS I This IELTS I course is intended for students with little or no experience with the exam and aims for a band score of 4.5-5.5 for each section of IELTS. Students will become familiar with the format of the IELTS exam and learn what kinds of questions to expect. To help students develop comprehensive English language skills, each section of listening, reading, speaking, and writing will be covered. Classes will include pair work and discussion. IELTSの経験が全くもしくはほとんどない学生向けの科目である。IELTSの各セクションにおけるバンドスコア4.5-5.5を目標とする。試験形式に慣れ、予想される出題内容を学び、受験の準備を行う。総合的な英語力をつけるために、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの各セクションを学ぶ。講義ではペアワークやディスカッションを行う。	
		IELTS II This IELTS II course is intended for students who want to further raise their score by aiming for the 5.0-6.0 band of each section of IELTS. Students will deepen their familiarity with the typical question types and gain confidence in taking the exam. To help students develop comprehensive English language skills, each section of listening, reading, speaking, and writing will be covered. Classes will include pair work and discussion. IELTSの経験を積み重ねながらスコアの上昇を目指す学生向けの科目である。IELTSの各セクションにおけるバンドスコア5.0-6.0を目標とする。典型的な出題内容に慣れ、より自信を持って受験する準備を行う。総合的な英語力をつけるために、リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの各セクションを学ぶ。講義ではペアワークやディスカッションを行う。	
		海外語学講座Ⅰ 「海外語学講座Ⅰ」は、夏期休暇中にアメリカ、カナダ、イギリス、春期休暇中にアメリカ、カナダ、オーストラリアで、本学の協定校に約1ヶ月間語学研修をする制度。その国の文化や生活習慣についての学習や英語力を伸ばすことを重点においた学習を行う。スピーキング、リスニング、リーディングの練習に加え、グループワークを中心にフィールドワークなどを通して、その国の生活や文化を経験するとともに会話力や読解力をつけることを目標とする。	
		海外語学講座Ⅱ 「海外語学講座Ⅱ」は、夏期休暇中にドイツ、フランス、中国または韓国で、本学の協定校に約1ヶ月間語学研修をする制度。その国の文化や生活習慣についての学習や各言語能力を伸ばすことを重点においた学習を行う。スピーキング、リスニング、リーディングの練習に加え、グループワークを中心にフィールドワークなどを通して、その国の生活や文化を経験するとともに、会話力や読解力をつけることを目標とする。	
		海外語学講座Ⅲ 「海外語学講座Ⅲ」は、夏期・春期休暇期間を利用して、2週間ドイツ、韓国にある協定校において、集中的に語学を学習する。その国の文化や生活習慣についての学習や各言語能力を伸ばすことを重点においた学習を行う。	
		海外語学講座Ⅳ 「海外語学講座Ⅳ」は、夏期・春期休暇期間を利用して、2週間英語圏にある協定校において、集中的に語学を学習する。その国の文化や生活習慣についての学習や各言語能力を伸ばすことを重点においた学習を行う。	
		外国留学科目Ⅰ 直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の中級・上級外国語科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、外国留学科目Ⅰに読み替えることができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（グローバル教養学位プログラム）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
言語運用力	留学関連	外国留学科目Ⅱ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の中級・上級外国語科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、外国留学科目Ⅱに読み替えることができる。	
		外国留学科目Ⅲ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の中級・上級外国語科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、外国留学科目Ⅲに読み替えることができる。	
		外国留学科目Ⅳ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の中級・上級外国語科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、外国留学科目Ⅳに読み替えることができる。	
国際理解・グローバル力	A群	国際理解Ⅰ（異文化理解）	国際理解の第一歩は、自分自身の文化も含め、さまざまな異なる文化における価値観、偏見、慣習を内部者および外部者の視点から検証することである。国際理解の目的は、人類の共存のために、多様性を受け入れ、地球市民としての資質と自己教育力を高めることにある。21世紀に直面する人類共通のグローバルな問題を学習し、異文化理解の観点から国際理解に対する意識を高めることを目指す。	
		国際理解Ⅱ（国際問題）	この講義では、国際問題を深く理解するために特に、国際関係学的・地政学的・民族学的・社会学的などのさまざまな角度からの視点を使って考察していく。身近なニュースでも取り上げられるような国際問題について、分析し、理解し、その解決の糸口を一緒に考える。	
		SDGs概論	この講義では、①SDGsが提起する問題の状況、②それに対して目指すべき方向性と課題、③世界の先進的な取り組みや新しい思考方法について、最新の知見から学ぶ。①では、特に国内での消費活動や経済活動がグローバルな問題につながりを持つことを意識させる。③では、研究機関、企業、行政などから最新の知見を有する方をゲストスピーカーとして招き、最先端の動き・情報に触れさせる。この講義は、レクチャーとアクティブラーニングを組み合わせで行う。アクティブラーニングにより、理解度の確認と疑問点の整理、考察を深めることを促す。SDGsを足がかりとして、学生が自分の関心分野を見つけ、さらに知見を得ようとするきっかけ（踏み台）を提供することがこの講義の目的である。	
		グローバル実践プロジェクトⅠ	国際理解や異文化交流に関する学びと留学などの海外経験を踏まえ、各地のグローバルな課題について調査研究し解決方法を考えるプロジェクトを行う。地域・自治体・企業などが抱える課題にはグローバル社会の進展によって提起されたものも多い。本学が連携協定を結ぶ自治体・団体等に協力を求め、フィールドワークを実施して、身につけた知識・経験を現場に即して活用することを実践的に学ぶ。	
		グローバル実践プロジェクトⅡ	国際理解や異文化交流に関する学びと留学などの海外経験を踏まえ、各地のグローバルな課題について調査研究し解決方法を考えるプロジェクトを行う。グローバル実践プロジェクトⅠを終えた学生が取り組む発展的な課題や性質の異なる課題を設定することで、実践的な学びを深めることを目的とする。プロジェクトの規模や性格に応じて、グローバル実践プロジェクトⅠと合わせて運用することで、実践的な学びの多様性を確保する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル教養学位プログラム)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 理解・グ ローカ ル力	B 群	世界の中の日本Ⅰ	この講義では、日本の発想や技術がどのように海外に進出しているかを事例紹介から学び、社会にでる前にこれからどのように捉えておくことが必要かを考える。グローバル化に伴い社会のあり方が大きく変わっていることの理由や背景を知りどのような観点で変化を見るかを共に語り合いながら探求する。日本は国との境界が海によって明確に分かれており、さらに日本語を共通語とする他の国がないこともあって、長年、「内と外」が明確にわかれていた。しかし、日常の中に徐々に外国とのつながりが広がっていき、小さな町工場の仕事の世界につながっていたり、仕事仲間が外国人であったりと実社会は急速に変化している。そのような現状と身近な日本の発想や技術が海外でどのようにビジネスチャンスにつながるかを考える。	
		世界の中の日本Ⅱ	日本のODA（政府開発援助）はさまざまな形で援助を行っている。また、JICA（国際協力機構）は技術支援を行っていることでよく知られている。一方、日本の個人や企業がこうした政府レベルの動きとは別に、とてもユニークな発想で日本の技術、古くからの知恵、海外展開で現在はさまざまな活動をしている。 「世界の中の日本Ⅰ」からさらに発展して、日本の影響と何がユニークであるのかの根源を学びつつ、これからの日本社会がどのように世界にプレゼンテーションしていくべきかを考える。実際にはボランティア協力や企業の活動を事例研究として学ぶ。	
		English RegionsⅠ	English Regions I is single-semester integrated skills courses which aim to improve overall language ability and cross-cultural awareness. They do this while focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. English Regions I courses focus on the North American region. English RegionsⅠは、総合的な言語能力と異文化への認識力を高め、英語を母国語とする国や地域、または英語を主な公用語とする国や地域に焦点を当てながら、総合的な語学力と異文化への対応力を高めることを目的とする。ここでは、北米地域に焦点をあてる。	
		English RegionsⅡ	Each of English Regions I and II are single-semester integrated skills courses which aim to improve overall language ability and cross-cultural awareness. They do this while focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. English Regions II courses tend to focus on UK or Australia, but other English-speaking regions are also possible. Read this syllabus carefully to find out which region will be studied in this class. English RegionsⅡは、総合的な言語能力と異文化への認識力を高め、英語を母国語とする国や地域、または英語を主な公用語とする国や地域に焦点を当てながら、総合的な語学力と異文化への対応力を高めることを目的とする。ここでは、イギリスまたはオーストラリア、その他の地域に焦点をあてる。	
		English RegionsⅢ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、英語が母国語、または第一公用語で話される国や地域に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、English RegionsⅢに読み替えることができる。	
		English RegionsⅣ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、英語が母国語、または第一公用語で話される国や地域に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、English RegionsⅣに読み替えることができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 理解・グ ロー カル 力	B 群	German StudiesⅠ	ドイツへの長期・短期留学および海外語学講座に興味を抱いている意欲ある学生を対象に、ドイツ語の総合力を養成する科目である。ドイツへの留学の実現に向けた学習を支援するために、留学先として本学が提携している大学・機関とその都市（ベルリン、ライプツィヒ、ドレスデン）、および留学生活に必要な内容を学習する。
		German StudiesⅡ	ドイツ語圏への長期・短期留学および語学研修に興味を持つ、意欲ある学生を対象に、ドイツ語圏への留学準備・支援を提供する、あるいはドイツ語の総合的な運用能力を養成する科目である。ドイツへの留学の実現に向けた学習を支援するために、留学生活に必要な内容を学習する。
		German StudiesⅢ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、ドイツ語およびドイツ語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、German StudiesⅢに読み替えることができる。
		German StudiesⅣ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、ドイツ語およびドイツ語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、German StudiesⅣに読み替えることができる。
		French StudiesⅠ	フランス語圏への長期・短期留学および海外語学講座に興味を抱いている意欲ある学生を対象に、フランス語圏の社会や文化について、易しいフランス語を用いて説明し、言語運用能力を伸長するとともに、留学の実現に向けた学習を支援する。
		French StudiesⅡ	フランス語圏への長期・短期留学および海外語学講座に興味を抱いている意欲ある学生を対象に、フランス語圏の社会や文化について、易しいフランス語を用いて説明し、言語運用能力を伸長するとともに、留学の実現に向けた学習を支援する。
		French StudiesⅢ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、フランス語およびフランス語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、French StudiesⅢに読み替えることができる。
		French StudiesⅣ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、フランス語およびフランス語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、French StudiesⅣに読み替えることができる。
		Chinese StudiesⅠ	中国語圏への留学を考えている学生を対象に、中国語の実践的運用能力を高めること、現地での異文化適応能力を高めることを目指す科目である。 海外語学講座Ⅱの行先である北京郵電大学、交換留学先である北京郵電大学・厦門（アモイ）大学、台湾の東海大学・国立台北大学・国立聯合大学を想定し、日本語を介在させない中国語教育への橋渡しとしての講義、留学生活にスムーズに入ることができるようにする講義を行なう。
		Chinese StudiesⅡ	中国語圏への留学を考えている学生を対象に、中国語の実践的運用能力を高めること、現地での異文化適応能力を高めることを目指す科目である。 海外語学講座Ⅱの行先である北京郵電大学、交換留学先である北京郵電大学・厦門（アモイ）大学、台湾の東海大学・国立台北大学・国立聯合大学を想定し、日本語を介在させない中国語教育への橋渡しとしての講義、留学生活にスムーズに入ることができるようにする講義を行なう。

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 理解・ グロ ーカ ル 力	Chinese StudiesⅢ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、中国語および中国語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、Chinese StudiesⅢに読み替えることができる。	
	Chinese StudiesⅣ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、中国語および中国語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、Chinese StudiesⅣに読み替えることができる。	
	Korean StudiesⅠ	韓国の大学教育、とりわけ大学入試をはじめとする大学の分布と格差、入学後の学年暦、単位取得、専攻と副専攻、部活動、大学の施設、大学生の学内および学外の生活、就職状況、大学周辺の環境、大学生の住まい、そして本学の協定校の状況などのさまざまな内容を取り上げて学習する。さらに韓国人の大学教育に対する認識、大学教育の位置づけの把握を通し韓国人の教育観に対する理解を深める。	
	Korean StudiesⅡ	韓国の前近代から今日に至るまでの教育機関、教育制度、教育内容、教育政策を取り上げて学習する。これらの変遷と特徴を時系列的に把握し、韓国社会に文治主義思想が生まれた原因、人材育成の構想、とりわけ高度成長期以降に見られる過熱した課外教育に対する打開策、そして在日コリアンの教育まで踏まえて教育史の観点で講義を展開する。	
	Korean StudiesⅢ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、韓国語および韓国語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、Korean StudiesⅢに読み替えることができる。	
	Korean StudiesⅣ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において、韓国語および韓国語圏の社会文化に関する科目を履修し、講義時間数が30時間以上の場合、Korean StudiesⅣに読み替えることができる。	
	社会学概論	価値と規範からなる相互行為（interaction）の科学である社会学を、その基礎から系統的に学ぶ。 経済学などの社会科学より歴史の浅い社会学は、近代の成立に呼応して生まれ、近代から現代へという大きな歴史変動の流れのなかで発展してきた。講義では、社会学の歴史の中でこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な命題を、社会学史の流れに沿いながら紹介していく。	
	多文化共生論	社会のグローバル化とともに人の移動が活発になり、民族や文化が異なる人々が同じ場所で共に生活する機会が増えてきた。多文化共生社会とは、そのように背景の異なるさまざまな人が互いに認め合い共に生きる社会のことをさす。この講義では、多文化社会の歴史的背景をふまえて、日本をはじめアジア、欧米諸国での具体的な事例を比較、考察しながら多文化共生とは何なのか、その困難と可能性などについて考える。	
	文化人類学	この講義は、文化人類学の考え方や方法を知ること、また文化人類学的に他者および自分自身を理解する視点を得ることを目的とする。	
	社会人間学	この講義では、現代社会の仕組み（政治・経済・文化）が人間にもたらすもの、具体的には社会における倫理観や価値観、「関係」と「文化」との相互作用の社会人間学的基盤の一端を明らかにすることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル教養学位プログラム)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際理解・グ ローカル カ	B 群	社会心理学	社会心理学では、個人が日常生活のなかで何気なく感じていること や考えていること、そして行動を、他者や社会との相互作用を通じ て形成されるものと捉える。この科目では、人々の心の動き、感じ 方、考え方、そして振る舞いが社会心理学という枠組みのなかでど のように考えられているのか、またどのような説明ができるのかに ついて、人と人、人と組織、集団の心理、そして人と社会に関する さまざまな事例を手がかりに概説する。	
		ブリティッシュ・スタ ディーズⅠ	われわれが現在「イギリス」と呼ぶ国の歴史と文化を4つの時空間、 すなわち、①連合王国としてのイギリス、②ヨーロッパ史との関 連、③環大西洋史として、④大英帝国の編成と再編成、から見直し ていく。この4つの時空間が多層的に絡み合うなかで、イギリス文化 は想像され、創造されてきた。そこでせめぎあった階級や民族、 ジェンダーなどの要素に着目しながら、イギリス文化を見る/考える /感じるための基礎的枠組みについて学ぶ。	
		ブリティッシュ・スタ ディーズⅡ	われわれが現在「イギリス」と呼ぶ国の歴史と文化を4つの時空間、 すなわち、①連合王国としてのイギリス、②ヨーロッパ史との関 連、③環大西洋史として、④大英帝国の編成と再編成、から見直し ていく。この4つの時空間が多層的に絡み合うなかで、イギリス文化 は想像され、創造されてきた。そこでせめぎあった階級や民族、 ジェンダーなどの要素に着目しながら、イギリス文化を見る/考える /感じるための基礎的枠組みについて学ぶことにしたい。特に、戦争 とイギリス社会の関係性を文化的に読み解くことを試みたい。	
		アメリカン・スタディーズ Ⅰ	「行きつ戻りつ」を繰り返しながら展開されてきたアメリカ合衆国 の歴史を、読み解いていく。アメリカン・スタディーズⅠではそのア メリカの歴史の前半を扱う。	
		アメリカン・スタディーズ Ⅱ	「行きつ戻りつ」を繰り返しながら展開されてきたアメリカ合衆国 の歴史を、読み解いていく。アメリカン・スタディーズⅡはそのア メリカの歴史の後半を扱う。	
		社会問題と思想	国際社会や日本社会が面するグローバル・イシュー（自然環境の保 全、経済的不平等の是正、社会的分断への緩和など）を取り上げ て、それらが生じた背景にあるわれわれの価値観や慣習を省察す る。さらには、そうしたわれわれの価値観や慣習を改めていくヒ ントを、これまで唱えられてきた思想に引きつけながら考えていく。	
		社会問題と制度	国際社会や日本社会が面するグローバル・イシュー（自然環境の保 全、経済的不平等の是正、社会的分断への緩和など）に引きつけな がら、それらを生み出してきた現行の経済や社会、政治などの制度 のあり方を省察したい。ひいては、グローバルイシューに対処して いく際、そうした現行制度をいかに改めれば良いのかを考えていき たい。	
		グローバル研究プロジェク トA	芸術、文化、歴史、国際社会など、学生の興味関心のある分野に焦 点を当てたテーマを設定し、プロジェクトを設計する。 このプロジェクトにより、英語のスキルを磨きながら、人間として の連帯感を育み、グローバルな視野で物事を考える能力を育成す る。	
		グローバル研究プロジェク トB	国際系の諸問題に対処するための基礎教養を“リベラルアーツ”に 探る。このプロジェクトにより、グローバルな視野で物事を考える 能力を育成する。善き”市民社会”(civil society)とはなにか。私 たちは今なにを学ぶべきかを考える。	
		海外ボランティアⅠ	学外機関主催の海外ボランティアプログラムを利用する。 夏期または春期休暇期間の約4週間を利用してボランティア活動を 行う。	
		海外ボランティアⅡ	学外機関主催の海外ボランティアプログラムを利用する。 夏期または春期休暇期間の約2～3週間を利用してボランティア活 動を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	海外インターンシップ	留学先のカレッジでの科目履修と組み合わせたインターンシッププログラムで修得した科目に対する単位認定科目。プログラムでは、語学力に加え、海外での就業体験を通して、文化を越えたコミュニケーション能力と協調性を身につけることができる。	
国際理解・グローバル力 B群	エリアスタディーズⅠ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】アジア①（夏）、他	
	エリアスタディーズⅡ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】北アメリカ①（夏）、他	
	エリアスタディーズⅢ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】ヨーロッパ①（夏）、他	
	エリアスタディーズⅣ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】オセアニア①（夏）、他	
	エリアスタディーズⅤ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】シンガポール（理系）（夏）、他	
	エリアスタディーズⅥ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】アジア②（春）、他	
	エリアスタディーズⅦ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】北アメリカ②（春）、他	
	エリアスタディーズⅧ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】ヨーロッパ②（春）、他	
	エリアスタディーズⅨ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】オセアニア②（春）	
	エリアスタディーズⅩ	エリアスタディーズは、国際理解へのきっかけをつかむための1～2週間程度の短期留学体験型集中科目。現地大学教員による講義・演習、現地企業訪問、現地学生との交流等により、国際社会を多面的に学習する。 【エリア】その他	
	実践ボランティアⅠ	現在、社会福祉、保険・医療、教育、自然・環境、まちづくり、国際協力、災害などさまざまな分野において多くの人々がボランティアとして活動しており、ボランティア活動は社会を支える不可欠な存在になっている。この講義は実際に地域活動やボランティア活動に自主的に参加することによって、人と人との結びつきや社会の仕組みに関心を持ち、社会貢献の精神を学び、ボランティアに対する理解と認識を深めることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	実践ボランティアⅡ	現在、社会福祉、保険・医療、教育、自然・環境、まちづくり、国際協力、災害などさまざまな分野において多くの人々がボランティアとして活動しており、ボランティア活動は社会を支える不可欠な存在になっている。この講義は実際に地域活動やボランティア活動に自主的に参加することによって、人と人との結びつきや社会の仕組みに関心を持ち、社会貢献の精神を学び、ボランティアに対する理解と認識を深めることを目的とする。	
国際 理解 ・ グ ロー カ ル 力	B 群 地域ファシリテイト	現在、地域社会では人口減少、地域活動の担い手の高齢化、産業の多様化・国際化、地域コミュニティの弱体化など、さまざまな現象が起こっている。アフターコロナ社会では、これまでの慣習が大きく変化する。これらに適応した持続可能な地域社会づくりをめざすために、多様な担い手が当事者意識をもって、連携しながら諸課題に取り組むことが求められている。この講義では、地域の諸課題の解決をめざす活動を促進（ファシリテイト）するために必要な基本的理論や知識、技術等を習得することをめざす。	
デー タ サイ エン ス	AⅠ・データサイエンス入門	すべての学部の学生に向けて提供される、数理・AI・データサイエンスのリテラシーを学ぶ科目。この講義では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解する。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学ぶ。さらに、さまざまなデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学び、最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックもふくめて学習する。	
	データサイエンス基礎	統計学は「科学の文法」とも呼ばれる。そしていろいろな学問分野で、実証分析、データに基づいた意思決定等のために用いられている。また第4の科学と言われている「データ中心科学」の礎、中核となる理論、手法を提供している。この講義では、統計的問題解決とデータサイエンスの分野でよく利用されているpythonの基礎的な知識の修得を目標とする。	
	IT応用	この講義では、情報発信に重きをおいたIT応用能力の習得を目指す。情報発信のためのWebページ作成を中心に、デジタルカメラによる素材の収集と静止画編集に取り組む。	
	情報通信テクノロジーⅠ	インターネット時代をリードするのは、産業の垣根を越え新たな価値を創出できる人材である。この講義では、情報通信による未来を創造することができる社会人に必要な、情報通信テクノロジーの知識について学習する。 情報の処理や通信は、さまざまなテクノロジーにより構築されており、大きくハードウェアとソフトウェアに分類できる。これらについて、ある程度掘り下げた内容をできるだけ平易に解説することにより、そのしくみについて学習し理解につなげる。 （Ⅰ）ではテクノロジー系を学習する。	
	情報通信テクノロジーⅡ	インターネット時代をリードするのは、産業の垣根を越え新たな価値を創出できる人材である。この講義では、情報通信による未来を創造することができる社会人に必要な、情報通信テクノロジーの知識について学習する。 情報の処理や通信は、さまざまなテクノロジーにより構築されており、大きくハードウェアとソフトウェアに分類できる。これらについて、ある程度掘り下げた内容をできるだけ平易に解説することにより、そのしくみについて学習し理解につなげる。 （Ⅱ）ではストラテジ系およびマネジメント系を学習する。	
	ICTセキュリティ	情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して組織の情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るための基本的なスキルを習得することを目標とする。またその習得した知識により経済産業省情報処理技術者試験情報セキュリティマネジメントの合格も目指す。	
	基本情報技術	経済産業省情報処理技術者試験の基本情報技術者試験のカリキュラムを用いて、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を体系的に習得し、かつ実践的に活用する能力を身につけることを目的とする。またその習得した知識により基本情報技術者試験の合格も目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	統計基礎	統計学は「科学の文法」とも言われているように、自然科学、人文科学、社会科学等の学問分野において大変重要な役割を担っている。21世紀の高度情報化社会では、確かな統計データおよびその分析に基づいて持続可能社会（SDGs）の発展に貢献する社会人が求められている。 この講義では、大学レベルの統計学を学ぶ前に習得しておくべき統計の概念について、表やグラフを作成することを通じて学習する。加えて、さまざまな分野における調査・実験の基礎と統計学の活用についても学習する。	
データサイエンス	統計活用情報分析Ⅰ	統計学はいろいろな学問分野の基礎的な方法として重要な意味を持っている。特に収集したデータを的確に分析し、意思決定に役立つ情報を導き出す能力は多くの企業で必要とされる。この講義では、既に修得済みのデータサイエンス基礎の知識を応用して、さらに高度なデータ分析を行うための手法と考え方を習得することを目的とする。	
	統計活用情報分析Ⅱ	統計学はいろいろな学問分野の基礎的な方法として重要な意味を持っている。特に収集したデータを的確に分析し、意思決定に役立つ情報を導き出す能力は多くの企業で必要とされる。この講義では、既に修得済みのデータサイエンス基礎の知識を応用して、さらに高度なデータ分析を行うための手法と考え方を習得することを目的とする。	
社会科学	初級ミクロ経済学	ミクロ経済学の理論と、その理論を用いてさまざまな人の行動や社会の行動が分析できるということを学んでいく。 この講義は、日々学んでいる法律や政策を経済学という道具を使って議論できるようになることを目指す。	
	初級マクロ経済学	この講義では、基本的なマクロ経済学の理論を解説する。特に、私たち国民が得る所得（GDP）がどのような仕組みで増加するのか、また、国民が得る所得がどのような水準に決定されるのかを基礎から丁寧に学ぶ。この講義では、連立方程式や一次関数などの基本的な数学を用いるが、これらの数学が、マクロ経済の経済主体である家計、企業、政府の経済活動をどのように表しているのかを理解できるように進めていく。	
	国際経済	国際経済は、国境をまたぐ国家間での経済現象・経済問題を分析する経済学の一分野。現在の日本経済は国際経済との関わりの中で動いており、その知識・理解が日本経済を知るうえで必須と言える。この講義では、なぜ国際経済を理解しなければならないのかを、分野別の具体的トピックスを示しながら解説し、その背後にある経済のロジックを学習する。	
	経済政策	ミクロ経済政策とマクロ経済政策の基礎について講義する。(1)政府による完全競争市場への介入、(2)ゲーム理論入門、(3)消費者理論の解説、(4)租税の経済効果、(5)税の帰着と負担、(6)コミットメント問題、(7)IS-LM分析、(8)総需要・総供給分析、(9)マクロ経済政策におけるトピック、(10)日本におけるマクロ経済政策等について学ぶ。	
	地域政策	地域は人口減少や高齢化、地域経済の縮小などさまざまな課題を抱えている。この講義では、このような課題が発生する地域のメカニズムを都市空間、住宅、交通、産業といったさまざまな視点から明らかにしたうえで、その解決策としての地域政策を解説するものである。これら一連の知見に基づき、地域の課題解決策を自ら考え提案することを通じて、さらなる課題発見力／課題解決力を醸成することを目的としている。なお、現在、地域課題を発見し、その解決策を導くような課題解決型（PBL）学習が学部横断的に提供されているが、この講義はそれらに必要な基礎的知見を身につけることにもつながる。	
	現代アジア経済Ⅰ	国際経済の重要な構成地域であるアジア経済の現状を学ぶ。特に、アジアの経済発展を開発経済学の視点から捉え、アジア企業のダイナミズムに焦点を当てる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代アジア経済Ⅱ	講義はグローバリズムの変遷と東アジア経済発展過程に関連させながら講義する。ポスト・グローバリズムを展望しながら、アジア経済の課題は何か、日本経済の進路にはどのような戦略的オプションがありうるのか、考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学	現代中国経済	2010年に中国は日本を抜いてアメリカに継ぐ世界第二番目の経済大国になった。その原動力となった国の方針を「改革・開放」と言う。この「改革・開放」という言葉はもとより、それをリードした鄧小平という名前すら知らない人が多いと思われる。この講義では現在の中華人民共和国の生い立ちから始めて、その足取りと現在の中国が直面する問題までをできる限り包括的に概説する。	
	現代アメリカ経済	この講義では戦後のアメリカ経済を学習する。アメリカ経済を学ぶ意義は、第1に、日本にとって特に重要な存在で、第2に、アメリカ経済の動向は日本の将来を考える上で重要な参考材料となるからである。このような観点から、戦後のアメリカ経済を年代順にそのパフォーマンスを概観し、動態の理解を深めていく。	
	公共政策	この授業は、大きく2つの内容から構成されている。 第1に、グローバル公共政策について学ぶ。グローバル公共政策とは、地球規模での公共的問題の解決のための政策である。授業では、近現代の世界史との関わりの中で、グローバル公共政策の理論、規範、手段、政策過程について学ぶ。 第2に、日本の公共政策について学ぶ。少子高齢化の進行や国際化の進展といった社会環境の変化により、わが国では一個人では解決することのできない問題が数多く発生している。これらの問題を解決するための手段である公共政策が形成され、実行され、フィードバックされていくプロセスを「政策形成過程」というが、本講義では、わが国における政策形成過程が抱える問題点を認識するとともに、公共政策の効果を高めるうえで必要な視点について考える。	
	中級統計学	この講義は「確率」「統計」の2つのパートから成る。前半の「確率」のパートでは、確率変数・確率分布の概念を学ぶ。確率は統計学の理論的基礎となるだけでなく、不確実性に直面する経済主体の意思決定の分析においても不可欠である。後半の「統計」のパートでは、一部の観察（標本）から全体（母集団）について推測する「統計的推測」の方法論を学ぶ。この講義を通じて「統計的事実」と「真実」を区別する感覚が身につく。	
	計量経済Ⅰ	この講義では、計量経済学の基礎から応用までを具体的な例を提示しながら学んでいく。具体的には、計量経済学のさまざまな実証分析手法を紹介すると同時に、その分析結果を正しく読み取るための方法をレクチャーする。	
	計量経済Ⅱ	この講義では、主に予測の観点から時系列データの分析手法を学ぶ。前半では、まず変量定常過程について、線形時系列モデルの定式化・推定・モデル選択を理解し、その上で多変量時系列への拡張と応用を学ぶ。後半では単位根・共積分といった非定常過程の取扱いや、金融時系列の分析に役立つ非線形時系列モデルを紹介する。	
	ビジネスデータ分析	この講義では Excelを用いて経済のさまざまなデータを用いて分析を行なう。分析ツールを丁寧に解説しながら、Excelを用いたデータ分析の方法を解説する。Excelが導出した分析結果がどのようなことを意味しているのかを理解し、分析結果で導出された数値を自身で解釈することができるように講義を進める。	
	入門民法 財産法編Ⅰ	この講義は、今後、専門科目に準じたキャリア創生共通科目 政策・法務系「入門民法 財産法編Ⅱ」「実践民法」で民法を学ぶための基本的知識・用語等を、簡単な事例・基本的な事例を通して解説する講義である。	
	入門民法 財産法編Ⅱ	「民法総則」部分では、本人に代わって他人が契約をする「代理による契約」、時間の経過によって権利取得や権利喪失が生じる「時効」を学び、「物権法」部分では、契約以外の制度・原理による所有権取得を中心に学んだうえ、所有権以外の物権についても知る。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	入門商法 会社法編	法学部学生以外を念頭に置き、株式会社の法的基礎を理解できるよう解説する。適宜学生の理解の状況や興味関心に応じた一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても、講義で簡潔に説明を加える予定である。	
社会科学	入門ビジネス法務	企業に関わる法律や経済活動に関する出来事等を取り上げながら、アクティブラーニングによる学生との積極的なやり取りを通じ、ビジネス社会に関わる幅広い法的な問題についての双方向型講義を行う。学部を問わずに、学生のうちに知っておくべきビジネスと法のつながりを分かりやすく学び、将来、ビジネスの世界で活躍するための基礎力を養成する。「入門ビジネス法務」で培った基礎力を、「実践ビジネス法務」で実践的に活用できるように繋げていく。	
	実践ビジネス法務	企業に関わる法律や経済活動に関する出来事等を取り上げながら、アクティブラーニングによる学生との積極的なやり取りを通じ、ビジネス社会に関わる幅広い法的な問題についての双方向型講義を行う。学部を問わずに、学生のうちに知っておくべきビジネスと法のつながりを分かりやすく学び、将来、ビジネスの世界で活躍するための基礎力を養成する。	
	ビジネスを支える法の世界	ビジネスの世界をいくつかのフィールドにわけ、現場で生起している問題を知るのに必要な知識を整理し、またその分野で発生しうるトラブルを解決するために必要な法律知識を整理する。実務についている弁護士教員が、知識や理論面の整理を担当する。企業等で活躍するゲストを招聘し、企業経営にかかわる諸問題について講演してもらい、企業活動のさまざまな領域に関する理解を深める。	
	公共政策論Ⅰ	社会の課題を解決するための政府の活動方針が公共政策。社会の課題解決には、公共政策が必要となるが、政策がなかなか作られないこともある。また、公共政策ができれば解決されるというわけでもなく、政策を実施する実務で直面する課題もある。この講義では、そのような公共政策のプロセスについて学ぶ。そのためにまず、公共政策のプロセスについて理解するための前提となる知識として、日本の統治機構や政治行政について学ぶ。	
	公共政策論Ⅱ	公共政策論Ⅱでは、公共政策論Ⅰで学んだことを踏まえて、具体的に、どのようにして政策が作られ、それがどのような結果をもたらしてきたのかについて学び、政策過程の実態や問題点について思考を深めることを目指す。	
	知的財産とイノベーションⅠ	イノベーションを創出し、経済活動を支える源泉ともなっている知的財産について、保護のための知的財産法の基礎知識、基本的な事例および知的財産の利活用のための知的財産政策について講義する。	
	知的財産とイノベーションⅡ	「知的財産とイノベーションⅠ」の内容を発展させ、イノベーションを創出し、経済活動を支える源泉ともなっている知的財産について、保護のための知的財産法の基礎知識、基本的な事例および知的財産の利活用のための知的財産政策について講義する。	
	国際法Ⅰ	国際法は、各国家の管轄権の及ぶ範囲とその行使のあり方を規制することを第一の目的としてきた。この伝統的な国際法の役割を理解し、さらに国際法の現代的課題である全地球的な問題を解決するための法的な仕組みを検討する基礎として、国際法の歴史的発展、国際法の成立形式、そして「国家」を法的に把握することをおもな目的とする。	
	国際法Ⅱ	一般国際法上、外国人保護のための規則は早くから整備されてきたが、自国民の取り扱いについては長く国内管轄事項とされていた。しかし現在では、人権の保障は国際社会全体の問題と考えられており、国家は、自国の管轄権下にある個人に対して、一定の国際人権水準を満たすことが求められている。この講義では、前半において外国人の保護に関する国際法を、後半において人権の国際的保障制度について概観する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（グローバル教養学位プログラム）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	国際政治学Ⅰ	幅広い分野をカバーする32章からなる教科書を1回の講義につき2章解説していく。 32章は大きく6つにまとめられており、第1部は主権国家体制と平和、第2部は非国家主体の役割、第3部は政治と経済、第4部は環境と科学技術、第5部は規範とアイデンティティ、第6部は日本から見る世界がテーマとなっている。		
社会科学	国際政治学Ⅱ	概論的な内容の国際政治学Ⅰに続いて、後期の国際政治学Ⅱでは、日本にとって重要な国や地域を取り上げ、それらをめぐる国際政治上のさまざまな問題について検討する。 具体的な国や地域としては、中国・朝鮮半島・ASEAN・アメリカ・ヨーロッパ・アフリカなどが挙げられる。それぞれの紹介においては、日本との歴史的な関わりに重点を置き、日本の外交を考える際に必要な視点を身につけてもらうことも目的としている。		
	法学・政治学	経済法Ⅰ	この講義科目では、独占禁止法の実体規制のなかで、特に不当な取引制限の禁止、事業者団体規制、私的独占の禁止および企業結合規制の概要を示す。この講義は、「経済法Ⅱ」と一体となって、独占禁止法を中核にして現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望を探っていく。	
		経済法Ⅱ	この講義科目では、独占禁止法の実体規制のなかで、特に不公正な取引方法の概要とともに、公正取引委員会を中心とするその執行体制を示す。最後に、今日のトピックとして知的財産権・規制改革と独禁法・競争政策について言及する。この講義は、「経済法Ⅰ」と一体となって、独占禁止法を中核にして現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望を探っていく。	
	経営学	入門マネジメント	この講義がテーマとするマネジメントは、思想・哲学、経済学から心理学や社会学だけでなく、ボランティア組織からNPOやNGOまでに広がり、また知識だけでなく実践体験学習を行う。このテーマに関する目標を15回で達成するために、このクラスは広範囲な領域から、代表的なマネジメント概念だけを切り取って、しかも概念を図解する代表的な図表の読解を中心に、組織と自己成長のマネジメントを体験的に学ぶ。いわば、コンサルタントの「各種研修ワークショップ・セミナー」で受講する内容を、学術的に「種明かし」をしながら、組織とセルフマネジメントを「自己啓発的」に学ぶクラスである。	
		実践マネジメント	広範囲な領域から、リーダーシップの領域だけを切り取って、代表的な図表の読解を中心に、リーダーになるための自己成長のマネジメントの実践を学ぶ。リーダーに自己変革するために必要な自己理解と自己変革「自己啓発的」に学ぶクラスである。	
		入門ビジネス会計	今日の企業社会で活躍するために求められるスキルのひとつとして、会計にかかわる知識があげられる。この講義では、企業が公表している財務諸表を利用して、分析し、企業経営に役立てるために必要となる会計、企業分析の知識の習得を目指す。財務諸表を作成する視点ではなく、企業分析、経営意思決定に必要な情報をどのように財務諸表から読み取っていくかという財務諸表利用者の視点で学習していく。	
		実践ビジネス会計	この講義では、企業が公表している連結財務諸表を利用して、分析し、企業経営に役立てるために必要となる会計、企業分析の知識の習得を目指す。主に連結財務諸表に記載されている項目と計算構造、財務分析指標等を扱う。実際の企業の連結財務諸表を用いて実践的な学習となるような取り組みも実施する。 財務諸表を作成する視点ではなく、企業分析、経営意思決定に必要な情報をどのように財務諸表から読み取っていくかという財務諸表利用者の視点で学習していく。	
		経営管理論	この講義は経営管理について学び考えることを目的とする。経営管理の原則について触れた後で、組織で働く人々をいかに管理してきたのかについて、その歴史を探る。さらに、組織の成り立ちや組織目標実現のための方略としての戦略や、組織を牽引する機能としてのリーダーシップ、さらには組織を支えるフォロワーシップについて学び考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(グローバル教養学位プログラム)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		経営戦略論	この講義では、国内外の企業のケーススタディを通して、経営戦略の理論とともに「現代に生きる戦略」の実態を分析し、現代が求めつつある新たな企業像、経営者の役割（リーダーシップ）、そして、社会と企業の新たな関わり方等についても共に考えていく。	
社会科学	経営学	ベンチャービジネス	内外環境分析や事業アイデアの探り方に端を発して、ビジネスプランづくりから創業後の事業推進に至るまでを、実際の事例も交えつつ、紹介、検討する。なお、例えば研究開発型企業に特定するのではなく、広範囲の業種や規模、形態の創業を対象とする。	
		環境経営論	日本における環境経営を歴史的に辿ると、「環境経営」⇒「CSR経営」⇒「サステナビリティ経営」という系譜にある。この講義では、この歴史的な流れを追うと共に、サステナビリティ経営とは何かを探る。	
		国際経営論	国際経営は企業の持続的な成長をもたらす機会の一つとして、ますます不可欠な戦略となっている。この講義では、国際経営の現象の具体的な内容、それに伴う経営上の諸問題とその解決策を実際の事例や現象を取り上げ、解説する。この解説を通して、国際経営を理解するための基礎知識の習得を目指す。	
		アジア経営論	この講義は、経営戦略や競争戦略などと合わせてその実際の応用において、「グローバル経営とアジア」を軸に、アジアにおける経営、アジア発のグローバルビジネスなどについて関連の基礎や専門知識を学修する。	
		国際マーケティング論	国際マーケティングの意思決定の順に従い、世界市場分析、世界市場調査方法、外国市場参入戦略、国際マーケティングミックス（I M K G M I X）を中心として理論的な側面と実際面の整合化を図ることを念頭に置く。データと事例を多く交えて分析も行う。	
		経営コンサルティング論	経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事はどのようなものかについて、実務で活躍している経営コンサルタントがわかりやすく講義・説明する。 「経営コンサルティングとは何か?」「戦略立案のアプローチ」「企業の分析（外部・内部）」「グローバル経営」など、経営コンサルティングにおける主要テーマにおける理論と実務を紹介する。	
留学関連		STAGEアカデミック留学科目Ⅰ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の学部専門教育科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、STAGEアカデミック留学科目Ⅰに読み替えることができる。	
		STAGEアカデミック留学科目Ⅱ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の学部専門教育科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、STAGEアカデミック留学科目Ⅱに読み替えることができる。	
		STAGEアカデミック留学科目Ⅲ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の学部専門教育科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、STAGEアカデミック留学科目Ⅲに読み替えることができる。	
		STAGEアカデミック留学科目Ⅳ	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の学部専門教育科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、STAGEアカデミック留学科目Ⅳに読み替えることができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル教養学位プログラム）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留 学 関 連	STAGEアカデミック留学科目V	直接協定を結ぶ海外の大学等へ留学する「協定校留学」や提携した機関のプログラムに参加する等の「認定校留学」の中長期留学で修得した科目に対する単位認定科目。留学先の履修時間数に応じて単位が認定される。 留学先において本学の学部専門教育科目に相当する科目を履修し、講義時間数が60時間以上の場合、STAGEアカデミック留学科目Vに読み替えることができる。	
キ ャ リ ア デ ザ イ ン	国際理解Ⅲ （グローバルキャリア）	国際社会の抱える問題点を明らかにし、情報収集を重ねながら現状分析していく。また将来国際社会の中で活躍するための考え方と、そこへ到達するための意識改革を目指していく。そのために自身の理解を深めながら、多様な考えをもった人とのコミュニケーションを率先して実現できるようにする。講義運営はグループワークを中心とし、リーダーシップを意識したアクティブラーニング型講義とする。	
	ベーシック・キャリアデザイン	グローバル社会で活躍する卒業生をロールモデルとして招聘し、その考え方や行動特性を探っていく。また自身の特性と照らし合わせながら自己の成長につなげていく。講義は実際の国際問題を題材にしたグループワークも実施し、問題解決を考えるケーススタディを行っていく。あえて異なる立場を設定し、他者理解しながら自己の考えとすり合わせるディベート形式の内容も取り入れていく。	
	プラクティカル・キャリアデザインⅠ	学部横断型2年次対象のキャリアデザイン科目である。多様な学生が協力しながら課題解決に取り組んでいく。 課題は実際に協力企業から出題してもらい、社会人が取り組んでいる課題を社会人と協働しながら最適解を探求していく。社会人との円滑なコミュニケーションも必要となる。このワークを通して働くということのイメージを深め仕事に対する興味を広げていく。	
	プラクティカル・キャリアデザインⅡ	3年次生にとって就職活動はもっとも気になる大イベントである。また近年企業から求められる人材は大きく変化してきている。終身雇用が現実的でなくなり、ビジネス社会において各自がキャリアアップを考えていく必要性が高くなった。これらを踏まえて「就職活動」において本当に大切なこと、役に立つことは何かを考えていく。『マニュアル化された就活』とは違う角度から『就職活動という行為とみなさんに求められること』について実践したいと考える。具体的には自分自身の特性について改めて整理してみる、世の中の仕組みを知る、社会人とのコミュニケーション機会を持つといった内容である。	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
（全学共通科目）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎共通科目（人文科学系）	A 群 リベラル アーツ	哲学	この講義では「哲学」という学問の入門的な講義を行なう。過去および現在の哲学者たちが何を考えそして何を悩んできたのかを知ることができると同時に、先の見えない将来を主体的に生き抜くための「思考力」を養う。	
		倫理学	この講義では、倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、より具体的かつ現実に応じた問題として、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題、世界の貧困、公衆衛生、気候変動、生物多様性といった地球規模の倫理的諸問題、および情報倫理や報道倫理といった現代の社会で考えるべき倫理的諸問題について学修する。	
		心理学	心理学がどのような学問なのかを、複数の主要分野からいくつかトピックを選び、その知見を概観します。その中でも、感覚・知覚心理学、学習心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学、発達心理学、教育心理学、社会心理学、臨床心理学、犯罪心理学の各分野について紹介する。	
		歴史学	歴史学は、現在に残された多様な史料情報を収集・分析し、それらを再構成して歴史叙述を行う実証科学である。この講義では多様な史料の性格を紹介するとともに、それがどのように解釈され史実として認定されてきたかについて検討する。	
		文学	イギリスの作品を中心に取り上げ、時代背景を踏まえながら解説する。さまざまな文学作品を通して自分の生き方、考え方、愛について考える。	
		哲学プラクティス	哲学の歴史や知識を学ぶのではなく、自分自身で且つ他人とともに哲学することを目指す。この講義でも哲学とは何か、その歴史はどのようなものかといった講義形式とはらず、さまざまな課題や対話に取り組みながら、自己と他者に向き合い気づきを得ることを目的とする。	
		女性学	この講義では、さまざまなキーワードから、身近で起こっている社会問題を「じぶんごと」として捉え、ジェンダー視点から批判的に考えていく。その際、女性学はもちろん、男性学も取り上げ、両性の立場から考えられるよう問題提起する。	
		現代の芸術	この講義では、現代アートの作品を知り、現代アートのあり方についての理解を深める。現代アートとは何か、どのような作品があるのか、アートとデザインはどのように違うのか、社会において現代アートはどのような存在なのか、ということについて、現代アートの歴史とともに解説する。	
		宗教学	キリスト教や仏教など、諸宗教に関する宗教学の基礎知識を学習することにより、現代社会や人間への視座を広げる。ヨーロッパ思想の源流の一つであるキリスト教の思想や文化への理解を宗教「学」ないしは宗教「哲学」という観点から深める。日本語で宗教学を学ぶことを通して、日本文化への自覚や反省を深める。	
	B 群 人間を学 ぶ	生態人類学	この講義では、生態人類学の歴史、人類が行ってきた狩猟採集、牧畜、農耕など生業活動や環境への適応などの基礎知識をつけた後、人と自然環境の関係やそこで起きる私たちの生活により身近な問題や葛藤について考える。	
		環境と文学	この講義は、文学という入り口から環境について学ぶ講義である。環境についての考え方を、文学作品に示された内容の詳細な検討を通じて、毎時に掲げる講義のテーマから考えていく。	
		芸術と社会	企業と文化施設、アーティストランの組織と行政の文化施策、そして芸術とコミュニティについて、できるだけ具体的に紹介し、学生の生活と芸術の関係を考える機会になることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通科目（人文科学系）	B 群 人間を学 ぶ	生命と倫理	現在、医療や生命科学をめぐる急速な技術の発展によって、生命をめぐるさまざまな倫理的問題が生じてきていると言われる。こうした諸問題について概観し、応用倫理学の一分野としての生命倫理学ではどのような筋道・発想で考えてきたかをみることを通じて、生命と倫理とが交差する領域について考察する。
		人権（同和）の問題	社会のさまざまな人権問題を具体的な現実から考え、差別などの矛盾の解決方法を探る。事例などを交え、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、コミュニケーション力などが育成できるよう、より実践的な人権学習の方法を学ぶ。
		感情・人格心理学	大勢が同じ場所で同じ体験をしても、その大勢の感想や意見、感じ方は全く同じにならない。つまり人の性格や感じ方には個人差がある。この講義では、この個人差の要因について、「感情」と「人格（パーソナリティ）」の理論や具体的な研究事例を通じて紹介する。それと並行して感情喚起のメカニズム、感情の測定、人格形成・変容等の「感情・人格心理学」の基礎について概観する。
	C 群 文化を学 ぶ	ことばと社会	日本語英語比較がテーマである。日本語と英語は何もかも違っているように見える。名前の書き方一つとっても、われわれは氏名の順で書くのに英語では反対である。住所の書き方も全く逆である。確かに違いは大きいのだが、それではその違いはどこに原因があるのか？その違いを誘発する原因が分かれば、案外共通する部分も見えてくるのではないだろうか？講義では各担当者が発音、動詞の意味論の側面から講義を行う。
		コミュニケーション論	この講義は、コミュニケーションの前提となる「自己」と「他者」に関する社会学の知見を学び、それらが織り成す「コミュニケーションの複雑さ」について理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。
		イメージと文化	私たちの身近にあふれる映像＝イメージについて理解を深める。①映像の原点 ②映像と表現の方法 ③映像と社会以上の3点を軸にし、歴史的視点を土台として多数の実例（視聴覚資料）を紹介しながら、映像文化の諸相を検討していく。
		日本語の諸相	日本語という言語を「国語」という、国家と結びつけた内側からの視点ではなく、外からの視点で捉える。具体的には、多くの学生の母語である日本語を客観的に一つの言語と捉え、諸言語との対比分析、時間軸（歴史）と空間軸（地理）に社会軸（年齢・性別等）を加えた3次元的分析を行なう。22世紀にも日本語が存在するために今後必要な言語政策についても言及する。
		比較文化	この講義は、文化を成り立たせる重要要素の一つである言語、なかでも言語行動を手がかりに日韓の社会や文化を理解するものである。主に、「あいさつ」・「あいづち」・「謝罪」・「待遇」・「ウチとソト」・「人稱と呼称」などのトピックを取りあげ、これらが機能する社会・文化的ファクターと織り交ぜながら掘り下げていく。
		芸術学基礎論	芸術作品を読み解く・味わうためにはどのような知識が必要だろうか。この講義では、美術館や展覧会に関心がある方、あるいは美学や美術史を学びたい方のための芸術に対する基礎的な知識を得る。芸術家の具体的な制作プロセスや展覧会の歴史・変遷を通して、美術を楽しむ・作品を味わうための眼差しや知識について学び、作家・作品・鑑賞者との関わりについての理解を深める。
		現代思想	この講義では、主に20世紀フランスにおいて展開された「現代思想」と呼ばれる哲学・思想の諸潮流を扱う。「現象学」「構造主義」「ポスト構造主義」という三つの大きな軸に沿って、現代の思考に大きな影響を与えたさまざまな哲学・思想を概説する。また、こうした現代思想と深い関わりを持つ現代社会の問題群にも適宜、目を向けていく。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
C 群 文化を学ぶ	近現代の文学	宮沢賢治の文学を中心に取り上げる。震災後の東北地方を中心に、宮沢賢治の文学は多くの人々の共感を呼んだ。賢治の文学を読み、食べて生きるとはどのようなことか、宇宙や自然と人間はどのように関わり合えばいいのか、本当の幸せとは何か等について考えていきたい。また、賢治の童話が生まれてくるまでの、明治から大正にかけての童話ジャンルの形成についてもふれる。さらに賢治の文学が、現代のアニメーション文化などにも大きな影響を与えていることについても学ぶ。	
	日本研究	この講義では、神功皇后という人物の伝承の変容に焦点をあてる。『古事記』、『日本書紀』に語られる神功皇后は、それ以降、さまざまな文献に描かれ、日本文化に大きな影響を与えた。また、その神功皇后に対する伝承は、日本文学だけでなく、歴史学や美術史、宗教文化史にいたるまで、学問分野を超えた研究対象ともなっている。この講義では、この神功皇后の伝承を、中世に制作された「八幡縁起絵巻」という絵巻物を中心に読んでいく。神功皇后の伝承が、時代や作品により、どのように変容し、享受されているかを確認し、伝承（物語）のあり方を考えたい。	
	越境する文化と文学	人や文化がさまざまな移動するグローバル化した現代の世界で明らかにになりつつあることは、国家や国民、国語、あるいは民族や文化といった旧来固定化されたものだと思われてきたカテゴリーの境界を越えたり、複数を混じり合わせたり、間を流動するような現象が当たり前になったという事実である。文化や文学も例外ではなく、○○文化や○○文学の空欄に国家や民族の名前を入れた表現ではこぼれ落ちてしまうような現象がさまざまなところに見られる。この講義ではそのような「越境する」現象として、大英帝国発の文化や移民の歴史、ユダヤ文学や現代日本の文学までを、3人の担当者がそれぞれの専門を軸として講義を行う。	
	伝統文化を学ぶ	甲南大学は日本の伝統文化で活躍する卒業生が輩出している。能楽・お花・お茶の分野を中心に、各界で活躍する卒業生が講師として、それぞれの領域について特色や魅力を紹介していく。この講義を通して、日本の伝統文化に関する理解を深めるとともに、グローバル人材に求められる自国の文化を語ることができる基礎的素養を養うことを目指す。またこの講義を通じて「甲南の文化力」を伝える。	
	社会思想史	この講義では、デカルト、ロックからカントまでの代表的な近世哲学者の思想を紹介し、西洋近代的な思考スタイルに通底するいくつかの特色をつかむとともに、私たち自身が無意識的にとっている思考態度を見直す機会とする。	
D 群 歴史を学ぶ	歴史と文化	この講義では、中世ヨーロッパの共同体と宗教に焦点を当て、社会と文化の関係について考える。中世西ヨーロッパの教会や修道院の具体的なありようを、「共同体」の理念と現実との関係を焦点に講義していく。	
	文学と歴史	この講義では、鎌倉時代に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を読んでいく。『宇治拾遺物語』は、同時代の『今昔物語集』や『古本説話集』などの説話集を始め、絵巻物、民話（昔話）とも、共通の説話を持っている。そのため『宇治拾遺物語』の説話は、「中世」という時代の思想や価値観が色濃く反映している。そこで鎌倉時代に、どのような物語が語られていたかを読むことで、当時の思想や価値観を考えるきっかけとする。	
	地域と文化	地域の文化とは、どのようにして生まれるのか、どのように変化したのか（あるいは変化しないのか）、今後どうなるのか、景観、物語（フィクション）性、遊び、生活、観光・・・さまざまな角度から、現在、過去・未来の時間軸をたてて、具体的な例を示しながら、考える。	
	芸術史	この講義では、「美術館」の成立過程を概観した後、「美術館」をめぐるさまざまな言説を検討し、現代のアート・シーンでの「美術館」の役割、その可能性も検証したい。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	歴史とメディア	この講義では、ポピュラー音楽の変遷とそれを伝えるメディアの移り変わりから、アラブ世界の現代史を分析し、彼らの「革命」とは何だったのか、今後どこに向かおうとしているのかを解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 目（人文科学系）	D 群 歴史を学ぶ	国際化の歴史 この講義では、いわゆる「鎖国」下の「日本」における国際交流の様相を紹介し、従来の「鎖国」イメージではなく、意外と閉ざされていなかった江戸時代について理解を深めることを目的とする。	
		生活の歴史 私たちの生活は、どのようなモノ、行為、関係で成り立っているのか。この講義では、ヨーロッパと日本の近代を対象にしつつ、生活を構成する事物と関係性について講義する。	
基礎 共通科目 目（社会科学系）	A 群 リベラル アーツ	社会学 この講義では、ふだん意識したことのない「社会」の輪郭をつかんでいくために、私たちの生活や文化のさまざまな側面（自己、相互行為、組織、ジェンダー、エスニシティなど）に光を当てる。そして、社会学の基礎的な概念を理解し、さまざまな出来事を社会現象として理解できるようになることを目指す。	
		法学 この講義では、①法学の性質や機能、歴史的背景を学び、②法律についての内容や機能を典型的に概観したのち、③「法と〇〇」というテーマで、法をめぐる諸論点について、分析的に検討を加えていく。	
		経済学 この講義では、経済学の基礎となる分野であるミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な理論や概念について理解することを目的とする。	
		経営学 この講義では経営学の学説における管理過程論、人間関係論、近代組織論を中心に学習していく。	
		政治学 この講義は、政治学の基礎的な知識・理論の習得を目標とするものである。	
		地理学 この講義では、人文地理学に関連する情報を紹介しながら、それぞれのテーマについて自ら考えることを目的とするものである。テーマとしては、施設の立地、食と地域、都市と農村などを予定している。講義の進捗に応じて内容が変わる場合もある。	
		国際関係論 この講義では、最初に、関係性の捉え方をいくつかの伝統的な手法から最近の多重な関係性理論を学び、そのうえで、具体的な国際問題を取り上げ、その解決を図るために動いている国家と国際機構のあり方を考えていく。	
	B 群 経済を学ぶ	産業と経済 情報通信産業・エネルギー産業の現状や今後の動向、問題点等について、さまざまなケーススタディを通じて経済学の観点から考察する。	
		企業と情報 この講義では、英国で提唱され、グローバルに普及しつつある「統合報告」(Integrated Reporting)について解説する。	
		歴史と経済 この講義では、20世紀前半に日本が領有していた「植民地」における政治・社会・経済の展開について、台湾を事例に講義する。	
		現代社会と企業 この講義は、日本企業の戦略・管理・組織・取引という概念を中心に、日本企業の経営行動にどのように特徴があるのか？それが欧米企業に比して、どのように異なっているのか？また、このような相違がどのような機能と逆機能を生んだのかを学習していく。	
		世界と経済 毎回、前週の時事経済問題をおもに日本経済新聞を材料にした資料を使って解説する。また経済学部以外の受講生も多いので、経済学の基本（市場、景気、金融、財政、為替、貿易など）を学習する。	
		暮らしと経済 経済学を用いて、さまざまな環境問題について分析していく。環境経済学の全体像を掴むため、多くのトピックを取り扱う。具体的には、身近な環境問題であるごみ問題や、近年注目されている環境税や排出権取引などについて、経済学的な観点から解説していく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（全学共通科目）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎共通科目（社会科学系）	B 群 経済を 学ぶ	福祉と経済	今日の日本社会においては、少子高齢化や所得格差に対して、年金、医療、介護、生活保護等の社会保障制度を整合的、総合的なシステムとして構築することが喫緊の課題となっている。この講義では、日本の社会保障制度を理解するための基本事項について解説を行なう。	
		社会とファイナンス	コスト意識とキャッシュ・フローの重要性を理解し、履修者が合理的な経済人として活躍できる基礎知識を身につける。	
	C 群 社会を 学ぶ	現代社会論	この講義は、「自己と他者」、「多様な性」、「労働」など、現代社会に関するさまざまなトピックを、社会学の観点から理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。	
		現代都市論	この講義では、都市社会学の理論と方法をもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なもの」についての理解を深めることを目的とする。	
		公共哲学	環境倫理学は、人間のあいだの倫理的行為の規範を人間以外の存在（たとえば、景観、植物、動物等）にまで拡大し、転用することによって成立する。その場合、当然のことながら、それまで人間にのみ通用していた倫理的概念を人間以外の存在に適用することの妥当性が問われざるをえない。この妥当性の反省が環境倫理学である。この講義では、こうした環境倫理学の諸論点を哲学的観点から吟味する。	
		環境人間学	この講義では、環境人間学的アプローチから環境と人間との関係、地球環境および地域環境をとりまく環境問題の構造、環境問題の解決のための方向づけについて、理解を深める。	
		社会福祉論	この講義では、社会福祉に関して、1. 社会福祉の歴史 2. 現代日本の社会福祉関連法や制度 3. 社会福祉の実際以上の内容を通して、社会福祉とは何かを理解する。	
		家族関係論	この講義では、現代社会における家族のゆくえを、社会学およびジェンダー論の視点から考察する。	
		歴史と社会	この講義では、生活様式（遊牧と定住）、言語（地域あるいは民族のテュルク化）、宗教（改宗・イスラーム化）の問題を軸に、テュルク民族の歴史を辿る。	
		ボランティア論	この講義では、ディスカッションを取り入れながら、日本社会や私たちの身近にある「ボランティア」活動の動向について学ぶこととする。	
		グローバリゼーションと文化	この講義では、グローバル化の時代における国際社会の仕組み、および日本やその他の地域や国々の社会・政治・経済・法律・福祉・文化について、講義とグループ学習を通じて幅広く学ぶ。そのなかで、特に共通点と差異、さらに地域や国家相互のつながりについて考察を深める。	
		地域連携入門	この講義では、まちの問題について学習者が事前に下調べをしたうえで、自治体や地域団体で問題解決に取り組む実践者をゲストに迎え、自治体や地域団体、教育機関等との連携による取り組み事例を学ぶ。観光、まちづくり、子育て、地方創生など、各地の多様な取り組みの連携による効果を検証し、課題を展望する。	
		地域とメディア	情報化社会において、メディア・リテラシーの力が問われている。幅広い知識を身につけた上で、メディアから正確な情報を選び出せるよう、接する情報に対して批判的な見方を養い、自らの考えを的確に持ち、他者に伝えるコツを身につける。	
	政 D 治群 を学 法と ぶ	日本国憲法	日本国憲法の運用を、第3章（国民の権利及び義務）に重点を置いて説明する。	
		社会生活と法	この講義は、労働をめぐる法制度を中心に解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通科目（社会科学系）	D 群 法と政治を学ぶ	現代政治論	この講義は、現代政治哲学の議論を手がかりに、現代社会における諸問題について考察するための基本的な視点を習得することを目標とする。
		法と情報	この講義では、「インターネットと法」をテーマに、「インターネット」から法律の基本知識を習得し、インターネットに関する法問題を考えることを目的としている。このことを通じて、インターネット社会において交錯する「法」の複合的な問題を検討していく。
		環境法学	この講義においては、私たちの生活における環境問題と行政との関係を法的な観点から考える。
		家族関係と法	家族を形成することで人はさまざまな問題に向き合うことになる。この講義は、法律がそれらの問題をどのように解決すべきと考えているのかを学び、現行法はそれらの問題に十分な手当てができていないかを考える。
		少子高齢社会と法	少子高齢社会、ライフスタイルや家族関係が多様化する社会において、人が生活していくためにはさまざまな問題につきあたる。この講義では、現在の日本社会で生じている生活上のさまざまな問題について、なぜそのような問題が生じているのかを考え、法はどのような支援を行っているのかを学ぶ。
		財産と法	財産に関連する法について学ぶ。
		消費者問題	この講義は、消費者問題をテーマとし、(1)法律〔5回〕、(2)消費者行政〔4回〕、(3)最近の消費者事情と企業〔3回〕、(4)企業活動と消費者〔3回〕という4つの観点から、それぞれ異なる立場、すなわち、法律、行政、消費者、企業の立場から検討する。
		市場と法	「市場と法」というテーマであるが、在学中に日本経済新聞や東洋経済などの雑誌を読んで、ビジネスやマーケットというものを身近に感じることができるように、法と規制という側面に絞って勉強する。
		組織と法	会社法を中心とした組織におけるガバナンスに関する規制を概観する。
		まちづくりと行政	この講義では、まちづくりの法制度とそこにおける行政の役割について学ぶ。まちづくりの実例を紹介して具体的なイメージを持ってもらいながら、まちづくりの法制度の仕組み・運用・課題について学ぶこととする。
		地域創生	地方自治体の制度、人口減少・少子高齢化社会、国と地方の財政状況などについての現状を理解するための基礎的な知識を習得し、なぜ今「地域創生」が必要とされるのか、現状について考える。その後、地域創生の方向性をめぐる議論や具体的な取り組み事例を材料に、地域創生のあり方について考える。
基礎 共通科目（自然科学系）	A 群 リベラル アーツ	数学	教科書の記述に沿って数の数式・数字からグラフなどを用いてイメージを形成し、数式から具体的なイメージをいかに引き出すかのヒントを示す。さらに、多くの事に法則を見いだすことの面白さも紹介し、数学とは縁遠いような民主主義にも数学が使えることを講述する。
		物理学	この講義は、高校で十分に物理学を学んでいない文系の学生を含めた、幅広い受講者に対して「演示実験」を通して物理学に対する興味と物理学の法則の理解を深めることを目的とする。
		化学	エネルギーの安定供給、マイクロプラスチック、地球温暖化など環境悪化の問題、新型ウィルスの蔓延。安全で安心な社会の実現には新しいエネルギー変換、環境浄化、医療、省エネルギー素子、IoTセンサーなど科学および技術の進歩が必要である。それらの心臓部である機能物質、つまり材料の性能は日進月歩高められている。あるものは物理、あるものは化学、そしてあるものは生物とその分野は多岐にわたる。この講義では種々の材料や素子、機器の機能の基本原理を理解し、それらを作り出す化学について学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系）	A 群 リ ベ ラ ル ア ー ツ	生物学	生命の基本単位は「細胞」である。この講義では細胞の機能を支える生命分子とそれらが作る構造体の理解を元に、種々の細胞で構築されているヒトの多様な生命機能を学修する。身近な生命体であるヒトの生存を支える種々の分子、細胞、組織の構造と機能、さらにそれらの破綻による疾病を理解すること、また現代社会を支えているさまざまな生命科学技術を理解することを目標とする。
		地学	この講義では、私たちが住んでいる地球がどのような惑星であるのかを知ることを目的とし、太陽系の様子、地球史、地球の活動について学ぶ。
		生命化学	この講義では、生物学と化学を同時並行的に学ぶことによって、さまざまな生命現象を分子レベルで理解する力を養うことを目標とする。
	B 群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	この講義では「ヒトはどこから来てどこへ行くのか？」この問いを念頭に置き、地球環境の変遷を理解するための「カギ」について、日常の自然現象に目を向けながら解説を加えていく。
		生物の歴史	この講義では、生物の進化について体系的に学ぶ機会を提供する。地質学、古生物学、解剖学、進化学、系統学、分類学、博物館学等に細分されるような知識を、生物の歴史という1つの流れに沿って解説する。
		自然と人間	この講義では、人間が自然に求めてきたものは何なのか、人間はどのように自然に働きかけ、それによりどのような弊害や利害がもたらされたのかなど、身近な問題や世界の多様な事例を通して人間と自然の関係について考えを深める。
		自然科学史	この講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説し、現在の科学・技術の社会的影響力の増大の根源について、その思想的・現代哲学的意義から肉薄していく。
		技術の歴史	この講義では金属材料、特に製鉄技術の発展の歴史を振り返りながら、人の生活に技術の発展がどのように影響してきたのか、また現代の科学技術の観点から歴史的に重要な技術の開発が行われたのかを見ていく。
		環境と地理	地理学はその成立当初から人と環境との関係というテーマに大きな関心を抱く学問で、現在の地理学の関心は多岐にわたり、このテーマへの関心は脈々と存在し続けている。この講義では人間社会と自然環境との関わりのありさまを主に東南アジアの事例から学ぶ。
	C 群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	この講義では、「物理」が日々の生活とどのような関係を持っているかを理解し、そのような視点から、我々が将来にわたって持続可能な社会をいかに実現するべきかを自ら考えられるようになることを目的とする。
		現代生活と生物学	この講義では、現代生活でよく知られている疾病の発症メカニズムや免疫のような外敵から身を守る機構などを理解するのに必要な生物学の基本的な考え方を学ぶ。
		現代生活と数理科学	この講義では現代生活に関わる社会システム、情報ネットワーク、AI、データサイエンスなどにおける数理科学の考え方を具体例に基づき、わかりやすく講義する。
		現代生活と最先端科学	この講義では多岐にわたる最先端科学の中から、ナノバイオテクノロジーに焦点を当てて、それらが現代の国際化社会において果たす役割について理解することを目的とする。こうした最先端科学の研究開発は、国際的な共同作業と競争の中で発展しており、国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学について考えていく。
		核と環境	「核と環境」ではエネルギーをめぐる原子核エネルギーの利用とそれに伴って引き起こされた問題について振り返る。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目 （自然 科学系）	環境の化学	この講義では、できるだけ身近な話題を取り上げ、環境問題の化学的な理解やその対策技術をできるだけ分かりやすく解説する。講義対象は、①公害問題（地域環境）、②地球環境問題（地球環境）、③新しい環境問題（生活環境）、④今後、取り組むべき環境問題に体系化して解説する。	
	大気と海洋	固体地球を取り巻く大気の層構造と、地球規模の大気の循環およびそのメカニズムを理解する。また、日本の天気の変化や降水のメカニズムについても学ぶ。海洋については、層構造と大循環、海面付近の波と潮汐について学ぶ。	
	国際化と情報ネットワーク	この講義では、携帯電話網を中心としたモバイルネットワークとスマートフォンに代表されるモバイルコンピュータの国際的な現状を、できる限り新しいデータとそのデータサイエンス的な分析結果を使いながら紹介していく。	
	国際社会における最先端科学	最先端科学の研究開発は、国際的な共同作業と競争の中で進展している。この講義では、日本国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学の重要性を考えていく。	
	現代生活と生命化学	この講義では、私たちの生活における化学と生物学の展開事例や応用事例を学び、現代生活における生命化学の重要性を理解することを目標とする。	
	Science in the World Today	英語圏の科学技術に関して著名な研究機関・研究所等について知見を得ると同時に、各国・地域の重要な産業や科学事情、ノーベル賞受賞等の著名な科学者についても理解を深める。必要に応じて各国・地域に住む人々の生活習慣や考え方、メンタリティーについても説明する。	
	Science, Technology and SDGs	Students will make two presentations. First, they will choose a problem related to science/technology and SDGs, and then research the problem and make a presentation about its causes and effects. Then, for their second presentation, students will research and present about possible scientific/technological solutions to the problems. 学生は2つのプレゼンテーションを行う。まず、科学技術やSDGsに関連する問題を選び、その問題について調べ、その原因や影響についてプレゼンテーションを行う。次に、その問題に対して考えられる科学的な解決策について調べ、発表する。	
	Science News	In this course we will read general articles and watch videos about some current topics related to various scientific fields including AI, astronomy, biology, IT, physics, nanotechnology, and so on. In addition, we will get some practice making oral reports and participating in simple discussions related to the topics being covered. In the early part of the course, the topics will be chosen by the instructor, but in the later part of the course students will be asked to choose and prepare news topics that they are especially interested in, and make oral presentations about those topics. Most tasks will require accessing the Internet, so it will be necessary for students to bring their computer or tablet to every class (BYOD with earphones). この講義では、AI、天文学、生物学、IT、物理学、ナノテクノロジーなど、さまざまな科学分野に関連する最新のトピックについて、一般的な記事を読み、ビデオを見ることができる。また、トピックに関連した口頭での報告や簡単なディスカッションに参加する練習をする。序盤は講師がトピックを選ぶが、後半は受講生が特に興味のあるニューストピックを選んで準備し、そのトピックについて口頭発表する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通科目（自然科学系）	D 群 情報 を学 ぶ	知能情報	この講義において、AIを動作させる計算機の発展の歴史を通じて、ヒトと機械の関係について講述する。
		生体情報	この講義では、人間を情報処理システムとみなす認知心理学、実験的手法により「こころ」の理解を目指す実験心理学、生物学的な基盤となる神経科学の観点から、日頃気にとめることのない知覚の特性がどのように成立しているかを理解していく。
		感性情報	「モノ」を作るときに必要な従来の工学的な考え方、捉え方を見直し、ユーザの立場に立つ新しい工学として提唱されている“感性工学”とそのカギとなる“感性情報”について初学者向けに解説を行う。
		生命情報	生物の進化の歴史を踏まえ、遺伝情報の伝達、感覚器による環境情報の取得、細胞内外での情報伝達のような生物にみられる普遍的な属性について理解を深め、多様な生命現象について関心をもち、自分の考えをもつ。
		認知科学	認知科学は、心の情報処理過程を中心とした、哲学・心理学・人類学・人工知能・教育学・言語学・神経科学にまたがる学際領域である。この講義では、認知心理学を中心にさまざまな学問分野から心の働きについて考察する。
基礎 共通科目	学 際 融 合 系	情報社会のセキュリティ	この講義では独立行政法人情報処理推進機構から公開されている資料を用いて企業あるいは組織に所属する構成員が身につける必要のあるセキュリティ対策について詳述する。
		食品科学	「食べる」という行為は、食品成分（栄養成分＋非栄養成分）を摂取し、主に栄養成分を体の中に取り入れる行為を意味する。一方で、近年は非栄養成分も私たちの体の健康状態を保つために必要であることが明らかになっている。この講義は、食品成分について分子レベルあるいは食品素材レベルで理解することで、「食べる」を考えていく。
		保健衛生	この講義では、公衆衛生学の歴史を振り返り、健康問題は時代と共に変化することや我が国の人口構成や死因、疾病構造の現状ならびに国際保健におけるWHOの役割や活動、母子保健制度、生活習慣病とその危険因子を学ぶ。さらに微生物による健康障害に対する理解を深めるために、微生物および感染症の基礎知識、感染症の制御に関わる我が国の取り組みや感染症流行の現状について学ぶ。
		癒しの諸相	この講義では「癒し」をキーワードにしながら、自分の心を見つめたり、自分自身の生きる基盤である、この現代社会について考えていくことをテーマとする。「癒し」という言葉が多用する現代社会とは何なのかということと共に考えていく。
		自己の探求	この講義では新たに知識を得るというよりも皆さんのいろいろな体験や感性を大事に、それらを磨くことに重点を置く。
		心の健康科学	「心」とはどのような構造をもち、どのように機能するか、また心を健康に保ち、育てていくためにはどのようなことが必要かという問題について、主として臨床心理学の観点から探っていく。
		環境教育の実践	この講義では、私たちの身近な暮らしのなかから見えてくる環境問題について学び、環境問題についての基本的な知識を学習した上で、フィールド実習によって環境教育の理論と実践について学ぶ。
		ケアの倫理	倫理学は、私たちがいかに生きるべきかを考察し、善悪（good and evil）、正不正（right and wrong）といった概念を扱う学問。この講義では、ケアの倫理が現れるまでの経緯、ケアの倫理がどのようなものなのか、そしてケアの倫理が対象とする問題がどのようなもので、それに対してどのようなアプローチをするのかを学修する。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎共通科目	学際融合系	人体の構造と機能及び疾病	身体の構造と機能、さまざまな疾病や障害、よくある身体症状など生物医学のごく基本的な事項、および心身医学の基本（心身相関など）を学ぶ。医療現場でも役に立つ臨床検査と画像診断の基礎的事項や、緩和医療・人生の最終段階の医療を支えるための基本的事項も学ぶ。
		フロンタランナー講座	この講義では、産業界をリードする企業の経営者や世界で活躍する第一線の研究者、新進気鋭の起業家など、社会の第一線で活躍する方々を講師として招き、先駆者（フロンタランナー）としての“ものの捉え方”、“斬新な考え方”、“成功の秘話や教訓”などを、講義を通じてお話いただくオムニバス形式のリレー講義で学ぶ。
		ライフプラン教育	この講義では、子育て問題に関わっている研究者である諸分野の教員が、それぞれ異なった切り口で、現代の子育てをめぐるさまざまな状況を踏まえた「ライフプラン」について講義する。
		社会を読み解く（クリティカルシンキング）	目の前にある情報を鵜呑みにしたり、表面的に捉えたりするのではなく、その物事にある問題を深く考えることで、物事の本質を読み解くため、この講義では、身近な題材を用い、演習形式で検討することで、クリティカルシンキングのスキルを高めていく。
		文章表現論	さまざまなジャンルの文章を書く作業を体験しながら、情報収集の方法やその活用方法、資料の読解の仕方、文献の引用方法、自分の考えを整理する方法、論理的で説得力のある文章を書く方法などを具体的に学んでいく。
	国際言語文化系	国際理解English	Using relevant SDGs (Sustainable Development Goals) as a basic framework, we will first cover some common international problems related to the societies of Japan and other countries. Then we will look at some international organizations such as the UN and related intergovernmental organizations, NGOs, NPOs, and social businesses that are working to find and provide solutions to these problems. SDGs（持続可能な開発目標）を基本的な枠組みとして、まず、日本や他の国の社会が共通して抱える国際問題を取り上げる。その上で、国連をはじめとする国際機関やNGO、NPO、ソーシャルビジネスなどが、これらの問題の解決に取り組んでいる事例を紹介する。
		English for Science	This course mainly deals with reading and listening comprehension in a science and technology context. There will also be a strong emphasis on reading, vocabulary acquisition, but students will also have opportunities to improve their listening comprehension through online video exercises. Various general topics in science and technology will be covered and materials will consist of articles and online videos. この講義では、主に科学技術の文脈における読解と聴解を扱う。また、リーディング、ボキャブラリー習得に重点を置くが、オンラインビデオ演習を通してリスニングの理解度を高める機会もある。科学技術に関するさまざまな一般的トピックを取り上げ、教材は記事とオンラインビデオで構成される。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	国際 言語 文化 系	Science Writing The course will cover basic writing skills at the sentence, paragraph, and essay levels, as well as some basic genres used in scientific writing such as describing a process, cause and effect, comparison and contrast etc. Students will write several types of paragraphs and an essay about various general topics related to science and technology. Although this is primarily a writing course, some class time will be spent orally sharing research data and presenting our writing to partners and small groups. この講義では、センテンス、パラグラフ、エッセイの各レベルでの基本的なライティングスキル、およびプロセスの記述、原因と結果、比較と対照など、科学ライティングで用いられるいくつかの基本ジャンルを学ぶ。また、科学技術に関連するさまざまな一般的な話題について、数種類の段落とエッセイを書く。主にライティングの講義であるが、研究データを口頭で共有したり、書いたものをパートナーや小グループに発表したりすることもある。	
		ヨーロッパの文化を学ぶ	ヨーロッパの文化、歴史とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のヨーロッパ文化についての理解を深めることを目指す。
		アジアの文化を学ぶ	アジアの文化、歴史とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のアジア文化についての理解を深めることを目指す。
		ヨーロッパの言語と社会	ヨーロッパの言語、社会とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のヨーロッパの言語と社会についての理解を深めることを目指す。
		アジアの言語と社会	アジアの言語、社会とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のアジアの言語と社会についての理解を深めることを目指す。
		国際理解	グローバル化時代の国際関係や現状認識、そしてグローバリゼーションと日本社会という観点に立って問題意識を見つけ出し、質疑応答を行いつつ、グローバル化時代の理解を深めていく。
		Japan Topics	Japan Topicsは、日本についての理解を深めることを目的とした科目で、特に外国人に対して、日本の社会と文化について正確かつ効果的に英語で説明できる能力を身につけることに重点を置いている。
		Culture Topics I	Culture Topics Iおよび IIは英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。Culture Topics Iは、北米地域（アメリカおよびカナダ）に焦点を当てる。講義はおもに英語で行われるが、内容の習得を重視する。
		Culture Topics II	Culture Topics Iおよび IIは英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。Culture Topics IIは、イギリス、オーストラリア、その他の英語圏の地域に焦点を当てる。講義はおもに英語で行われるが、内容の習得を重視する。
		日本理解	将来社会人として求められる異文化理解能力を身につけるために、アカデミック・レベルの日本文化の理解能力の習得と定着に重点をおく学習を行う。現代の日本の社会的問題等文字化された諸資料を中心に理解を深めながら、要約、議論、質疑応答を通して、インプットとアウトプット双方向での日本理解の学習を行い、政治、経済、歴史、社会システムといったさまざまな側面から日本の事情を知ることで、日本社会の一員として必要なバランスのとれた日本理解力を身につける。
	ス ポ ー ツ 健 康 系	スポーツ文化論	この講義では、人々の生活の中から生み出されアイデンティティーを受け継ぐ一旦を担っているとも言える「伝統スポーツ」と、我々のスポーツ観に大きく影響を与えている「近代スポーツ」が誕生した過程を学ぶことを通して、スポーツとは何かを考えていく。

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 共通科目	生涯スポーツ論	この講義では、「スポーツは人生を楽しむ手段として有意義なものである」という立場から生涯スポーツに関連する現状および今日的な課題について検討する。講義で紹介するテーマを足掛かりにして、受講生自身が生涯スポーツに関連する今日的課題を発見できることを期待する。	
	健康と生命科学	ヒトの生理学・解剖的なメカニズムを理解し、外界の刺激に対して身体がどのような適応をもたらすか生命科学分野である医学的観点から学習する。そのことにより、健康をどのようにマネジメントするかという予防医学の手法を身につける。	
	トレーニング論	トレーニングは体力トレーニング・技術トレーニング・戦術トレーニング・意志（メンタル）トレーニング・理論トレーニングの5つに分類され、トレーニング論ではこれらの概要を知ると共にそれぞれに含まれる各種のトレーニング法やトレーニングの原則についても学んでいく。加えてメンタルトレーニングを中心にトップアスリートが実際に行っているトレーニング法やトレーニング処方を紹介し、これについても考える。	
	スポーツ運動学	この講義では、スポーツ運動学（発生運動学/現象学的運動学）の立場から、「人間が運動を学ぶ営み」の内実を明らかにする。「人間が運動を学ぶという営み」に関連する諸事象を、スポーツ運動学の立場から分析し、受講生のスポーツライフに寄与する知見を得ることを目的とする。	
	スポーツマネジメント	現代におけるスポーツは「見る」「する」「支える」「調べる」というかかわりのもとでさまざまな産業の発達に影響を与えてきた。スポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしており、スポーツと経済は切っても切り離すことができない状況にあると言える。オリンピックをはじめとしたスポーツと経済のかかわりについてさまざまな角度から学び、自ら「調べる」ことによって、より現状理解を深める。	
	基礎スポーツ健康科学	基礎スポーツ健康科学は、「コーチング環境の特徴」、「スポーツの価値を守るスポーツ権」、「スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任」、「体力のトレーニング」、「社会の中のスポーツ地域におけるスポーツ振興」、「対象に応じたスポーツとの関わり」などのテーマを取り上げ、スポーツ・健康に関する基礎知識を学ぶ。	
	スポーツ医学	この講義は、スポーツ医学の基礎やその対処法を学ぶことで、安全にスポーツ活動を実践するための知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で生じる外傷、障害、疾患の予防法、評価法、治療法を学習し、傷害や内科的疾患に罹患した場合にでも、できるだけ早期にスポーツ現場へ復帰できるよう自分自身で考える力を身につける。	
	運動生理学	“Exercise is Medicine”と言われるように、運動（日常生活やスポーツ含む）は薬に匹敵するほど、疾病予防に効果があると言われている。では、運動さえすればよいのかというとそうではない。目的に応じた運動を実践しないと効果がみられないばかりか、逆に免疫低下や整形外科的疾患を引き起こすこともある。また、運動生理学は、運動が身体にどのような影響を与えるのかといったことを生理学的な立場から学習するものであり、健康のためのみならず、一流のアスリートにとってもトレーニング・プログラムを作成するための重要な学問である。この講義は、スポーツ医学やトレーニング科学の基礎学問として、運動と身体の応答について専門的に学習するものである。	
	スポーツ心理学	スポーツ心理学とは、スポーツに関する人間の心理的現象を扱う学問である。この講義では、スポーツ心理学の基礎、スポーツ実施と健康の関係、スキルの獲得に関わる運動学習、競技スポーツにおける心理的現象等を広範囲に学習する。体育・スポーツ実践において生じる諸問題に関して、心理学的側面（臨床的側面）から問題解決に取り組む姿勢を身につける。	
	スポーツコーチング論	スポーツコーチング論はスポーツにおける技能向上を本質的な目的とした学問である。スポーツコーチング論の学問的な整備は、1950年代のヨーロッパ諸国における国家戦略としてのスポーツ競技力向上に起因する。スポーツにおいて、実施の技能を高めるためには、指導者・アスリートにはどのような取り組み・努力が求められるのか、一般理論の内容と、3大競技領域に特化した内容から、説明していく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（全学共通科目）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 共通科目	導入 共通科目	甲南大学と平生鈺三郎	甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生鈺三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考える。	
		共通基礎演習	この演習では、甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人・成人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していく。プロジェクト型学習の形態をとり、いろいろな学部の学生が、どの学部かを意識せずに一つのテーマに多様にアプローチし、互いにコミュニケーションを図り、自然に多様なものの見方を身につけ、日本語力（考える、表現する、聞いて理解する、記憶し考え方を身につける）を大学・社会人レベルにアップしていく機運を次第に作っていくことを目指す。	
		IT基礎	この講義は、グループワーク等を通じて本学の新入生全員が身につけるべき基本的な情報リテラシー能力の習得を目指すものである。具体的な講義・実習内容として、インターネット、電子メール、本学のネットワーク環境、図書館情報環境、オフィスソフトウェア、情報倫理などについて学習する。	
		AI・データサイエンス入門	この講義では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解する。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、さまざまなデータを安全に扱うためのセキュリティや情報を適正に管理するための原則についても学習し、最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックも含めて学ぶ。	
外国語科目	基礎 外国語	College English Reading and Writing	The main purpose of this course is to give students the basic reading skills necessary for reading successfully both in their major field of study and for general interest. 英語で書かれた文章を読み、作者の意図を読み取る能力を伸ばすとともに、基本的なパラグラフ・リーディングの技能を身につける。	
		College English Listening	The main purpose of this course is to improve student's ability to understand conversations spoken at natural speeds. Students will also begin to listen to additional types of spoken messages such as short news stories or documentary reports. 学習者の先行知識を生かして実際に話される英語を聞き取り、内容を理解する能力を養う。英語が実際に話されるときに音がどう変化するか学習する。	
		College English Speaking	The main purpose of this course is to enable students to participate in basic conversations in a variety of situations. Some practice with talking about personal experiences and expressing ideas and opinions is also included. 英語を母語とする教員の指導によるCommunicativeな学習環境の中で、英語を話す能力の伸長を目指す。オーラル・コミュニケーションを基礎とし、相手の意向を理解し、自分の意見を英語で話す実践的な英語運用能力を養う。	
		基礎ドイツ語Ⅰ	ドイツ語で「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成する。基礎Ⅰではとくに「読む・書く」の基礎を身につけるために文法事項の理解と習得に重点を置くとともに、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
		基礎ドイツ語Ⅱ	ドイツ語で「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成する。基礎Ⅱではとくに「聞く・話す」の基礎を身につけるために、ペアワークやグループワークも取り入れて口頭練習に重点を置く。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	基礎フランス語Ⅰ	フランス語文法の基礎をゆっくりと学ぶ。発音、文字と綴り字の関係、基本的な文の構造を理解させ、「読む」「書く」面を中心としてフランス語を習得させる。また、正確な〈音読〉ができるようにする。	
	基礎フランス語Ⅱ	フランス語でコミュニケーションするための基礎能力を養う。CDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、日常会話の初歩を学ぶ。「聞く」「話す」を中心とした講義ではあるが、基本的な表現は「書く」こともできるように指導する。	
	基礎中国語Ⅰ	中国語入門。発音から基礎的な表現、文法、作文を習得することにより、読解や会話の基礎となる中国語の「読み・書く」能力を養成する。	
	基礎中国語Ⅱ	日本人学習者にとって難しい中国語の有気音と無気音「-n」と「-ng」、そり舌音、前鼻音と後鼻音、声調（四声）の学習を通じて、中国語を初歩的な「リスニング、スピーキング、パフォーマンス」能力の養成を目指す。	
	基礎韓国語Ⅰ	読解（読む・書く）を中心とする初修韓国語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用などの文法事項の理解に重点を置く。辞書の引き方を習得し、単語の学習、初歩的な文章の翻訳、簡単な文章の作文を行う。	
	基礎韓国語Ⅱ	会話（話す・聞く）を中心とする初修韓国語の学習に必要な平音・激音・濃音・鼻音・流音の正確な発音、連音化に伴うさまざまな発音の変化を学習する。正確な発音の習得に基づいて、会話を習い、初歩的な日常会話の能力を身につけることに重点を置く。	
	大学日本語入門Ⅰ	大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行なう。	
	大学日本語入門Ⅱ	大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行なう。	
保健体育科目	基礎体育学演習	基礎体育学演習は、体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせで行う。体力テストは文部科学省推奨の新体力テストを行い、自らの体力の現状を客観的に把握する。また、健康リテラシーの講義を通して、健康に対する正しい知識を持ち、健康や体力向上への意識を高める。さらに、さまざまなスポーツを行うことで、体を動かすことの楽しさや、スポーツを通して仲間との協働やコミュニケーションを図ることなどを学ぶ。これらを組み合わせで行うことにより、将来的に健康的で活力溢れる生活ができるようなスポーツライフマネジメントを考えていくことに取り組む。	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨および当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。